

第2章 利用ゾーニング案の検討対象地域の地域特性および利用実態

1. 対象地域の選定

(1) 利用ゾーニングの目的

自然公園の山岳地域において自然環境の保護と利用を両立するためには、対象地の自然条件、社会条件を踏まえた上で利用者層や利用形態に応じた施設整備の水準・方針を明らかにすることが必要である。本業務では、吉野熊野国立公園の山岳地域を対象として、自然環境、利用特性を踏まえたゾーニングの考え方を検討し、利用ゾーニング案を作成した。なお分析にあたっては、平成23年度総合的山岳環境保全対策推進事業実施業務で得られたゾーニングのタイプ区分等を参考とした。

(2) 対象地域の選定

本分析は、古くから豊かな文化を育んできた地であり、国内初の利用調整地区を導入するなど自然環境の適正な利用・活用に関して先駆的な取り組みが行われてきた吉野熊野国立公園、大台ヶ原山管理計画区を中心とする地域を分析対象とした。

範囲の設定にあたっては、自然公園区域だけでなく大台ヶ原山に密接に関係してきた周辺の集落（上北山村小椽、河合、木和田等）を含めるとともに、三重県側からの主要なアクセスルートである大杉谷線歩道を含むように設定した。

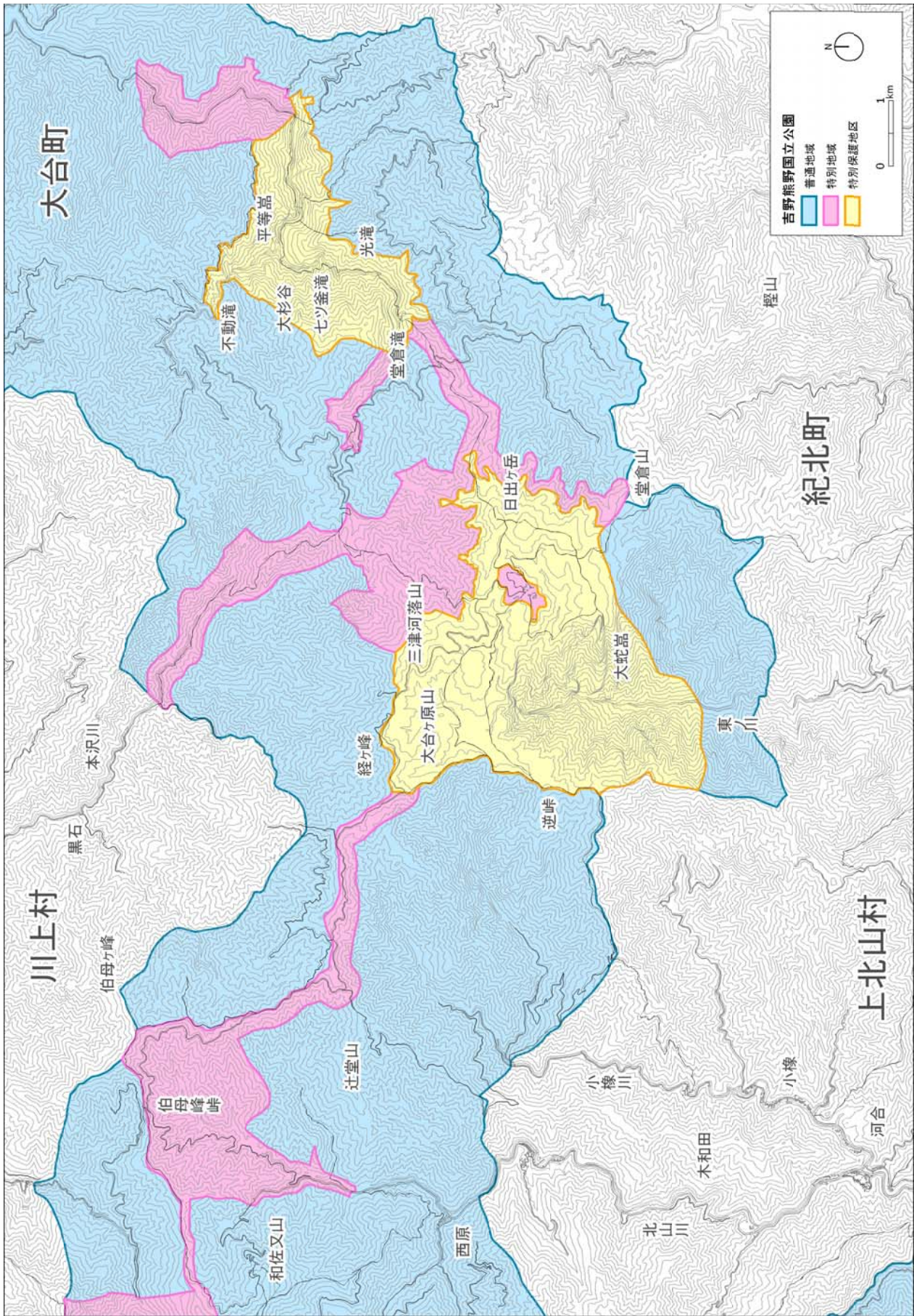


图 2-1：分析対象範囲と自然公園区域

2. 対象地域の自然条件

(1) 地形・地質

大台ヶ原は、紀伊半島の南東部、奈良県、三重県の県境を分ける台高山系の南端に位置しており、紀伊半島の中では高標高の地域である。大台ヶ原は、紀伊半島の主要な河川である宮川、熊野川、紀ノ川の水源地でもあり、それぞれ伊勢湾、熊野灘、紀伊水道に注ぐ。大台ヶ原の標高は1,300m～1,695mの範囲にある。日出ヶ岳(1,695m)が最も高く、宮川、熊野川、紀ノ川の分水嶺となっている三津河落山や経ヶ峰、堂倉山等のピークに囲まれた地域は傾斜の緩やかな台地状の地形となっている。この地形は、現在のような山地に隆起する以前に生じた準平原が隆起後も残された非火山性隆起準平原であり、日本では希少な地形として注目されている。この台地状の地形の南側には、谷頭浸食により生じた大蛇岨、千石岨等の断崖絶壁が形成されている。地質については中央構造線の南に位置し、地質構造は新第三紀以前の地層が帯状に配列している西南日本外帯に属している¹。日出ヶ岳から経ヶ峰にかけてのラインを境として、北東部は秩父帯でチャートと泥岩・砂岩・緑色岩・石灰岩類、南西部は四万十帯で砂岩・泥岩から構成されている²。対象地域の西側には北山川、小椽川が流れ、河川沿いに西原、河合等の集落が立地する。

大杉谷は、大台ヶ原山から伊勢湾に注ぐ宮川の源流に当たり、多くの滝や淵、大岩壁と原生林の織りなす自然の造形は、我が国屈指の溪谷美を構成する。大杉谷一帯は、秩父古生層といわれる砂岩、碧眼、チャート、石灰岩などの堆積岩とこれに貫入する火成岩より構成されており、日本有数の多雨地帯である大台ヶ原の水系による激しい浸食作用をうけることにより、変化に富んだ暖壁や滝、淵などの地形を作っている³。

対象地域の土壌区分をみると、褐色森林土が大部分を占めており、尾根筋については乾性褐色森林土となっている。

¹ 日本の地質「近畿地方」編集委員会編、1987

² 環境省近畿地方環境事務所「大台ヶ原自然再生推進計画－第2期－」、平成21年3月、1～3頁

³ 環境省近畿地方環境事務所「吉野熊野国立公園 大台ヶ原・大杉谷地域整備基本計画」、平成19年9月、5頁

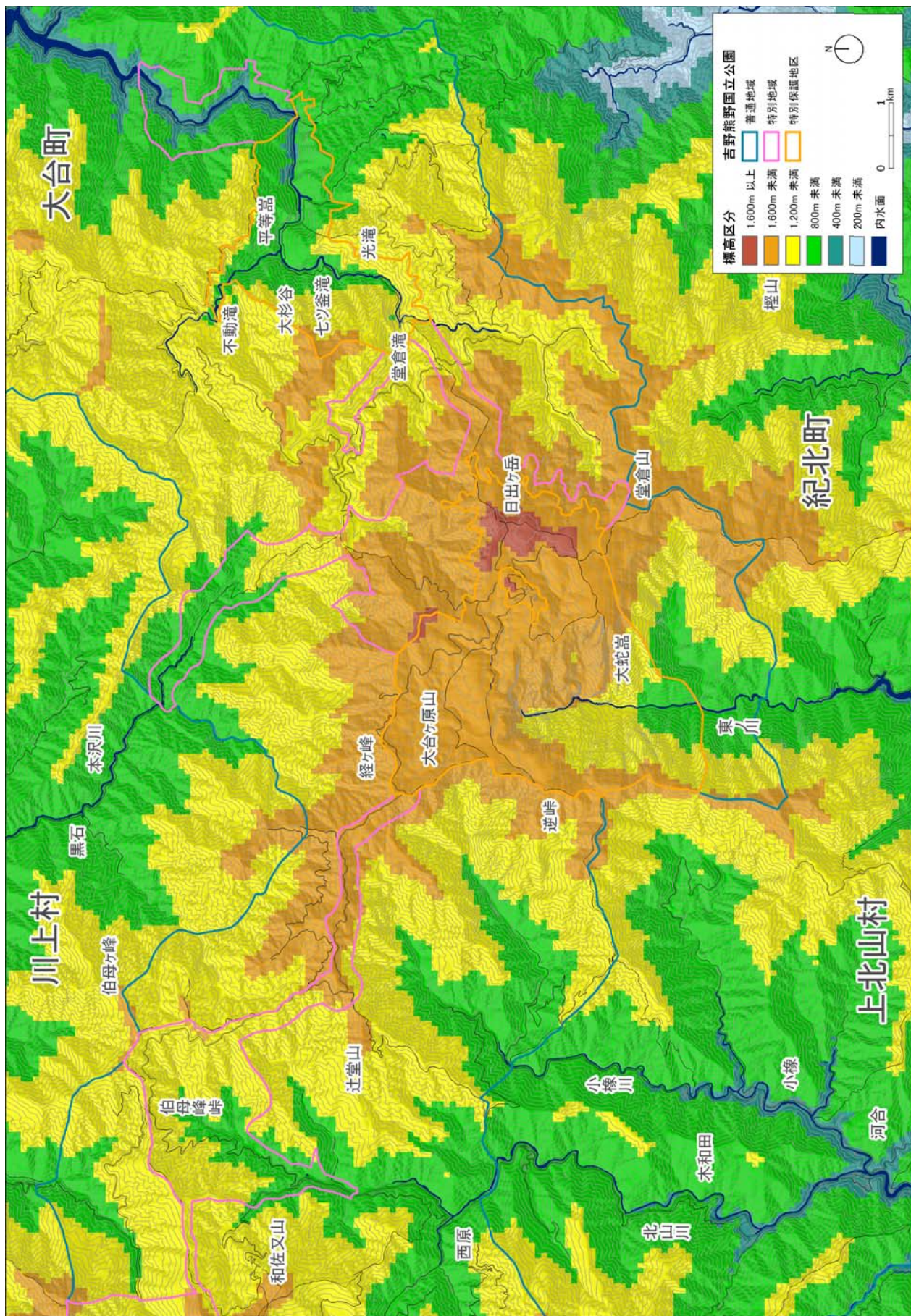


图 2-2 : 標高区分

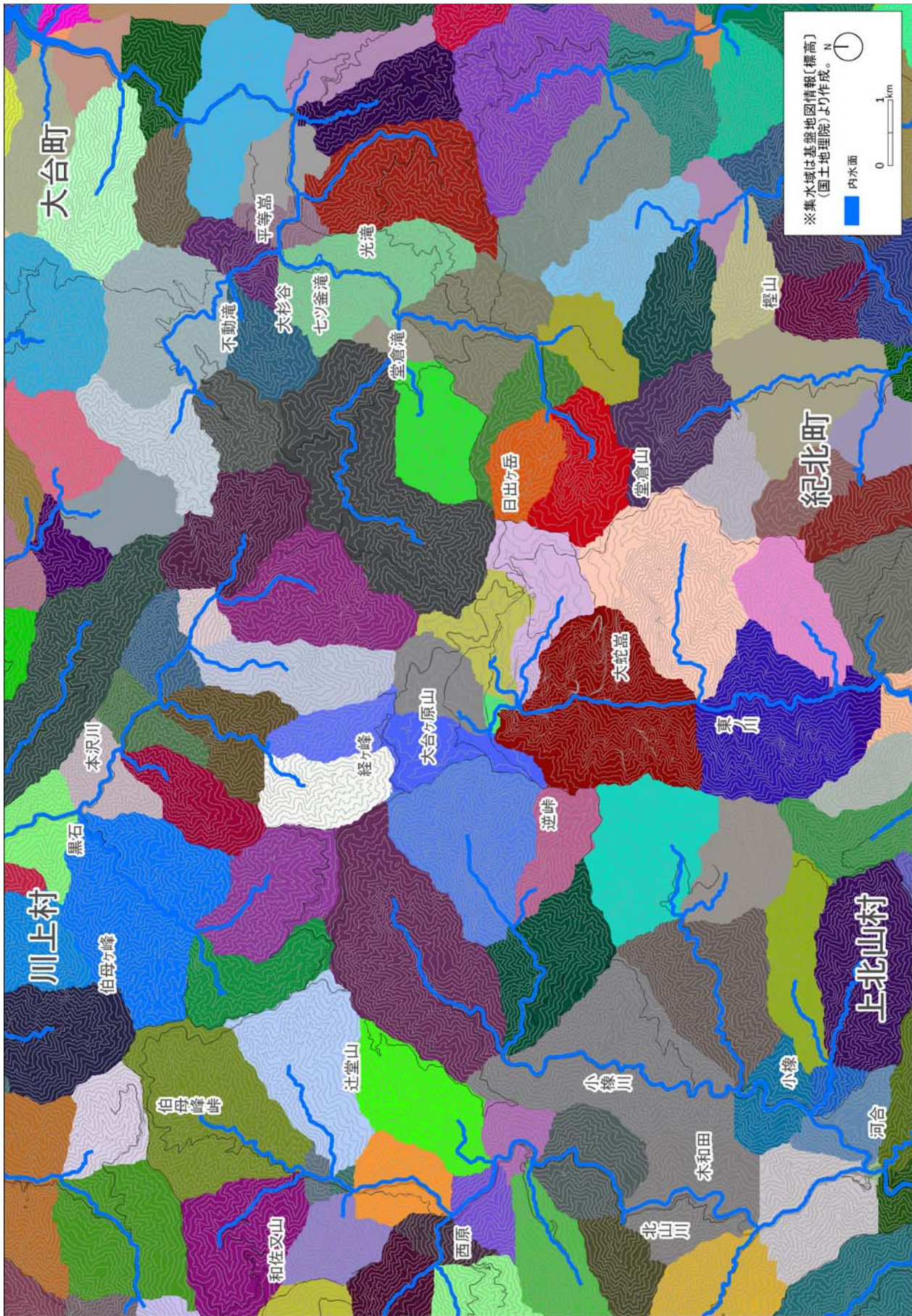


図 2-3 : 流域区分 (基盤地図情報より作成)

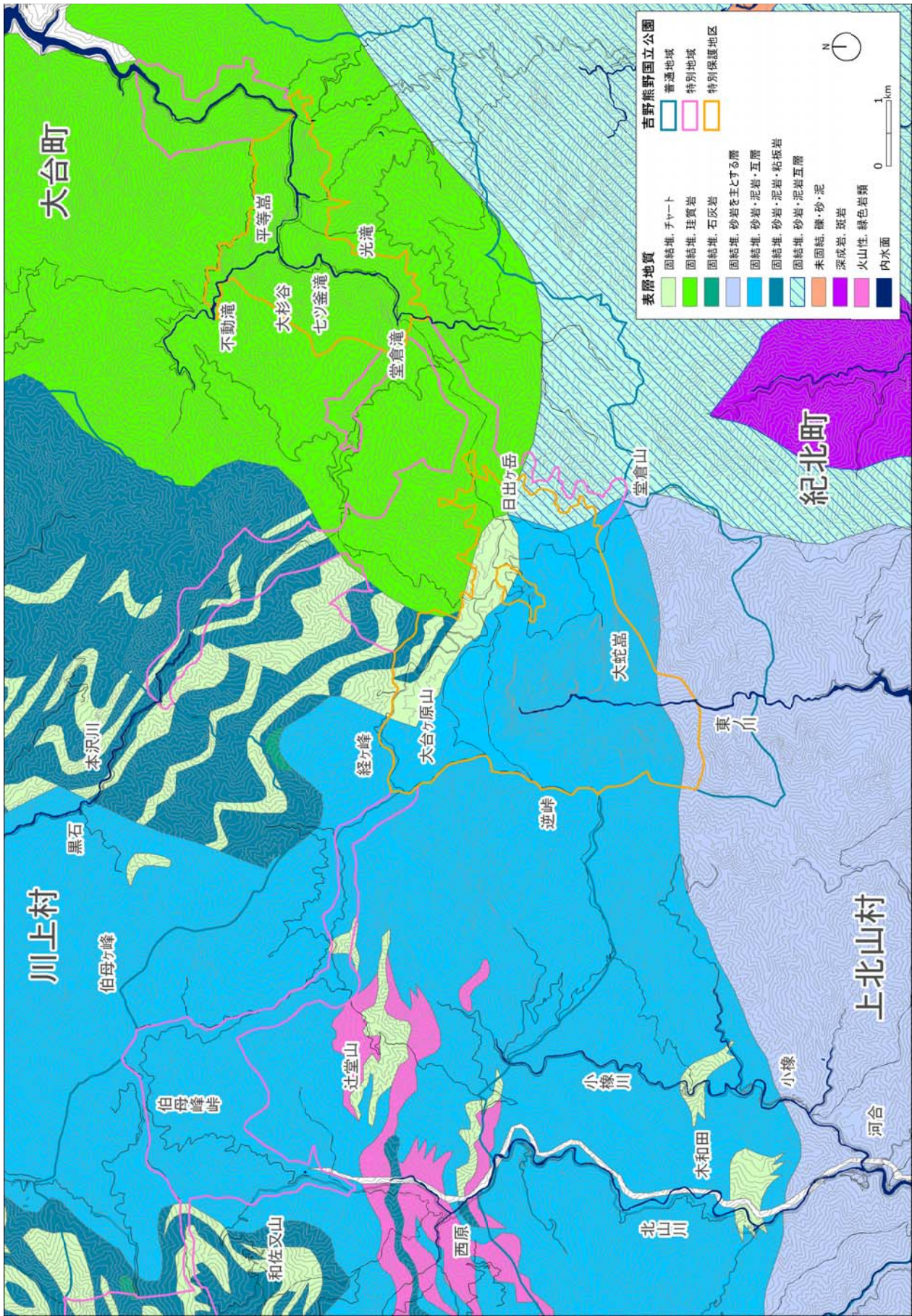


图 2-4：表層地質図（出典：20 万分の 1 土地分類基本調査）

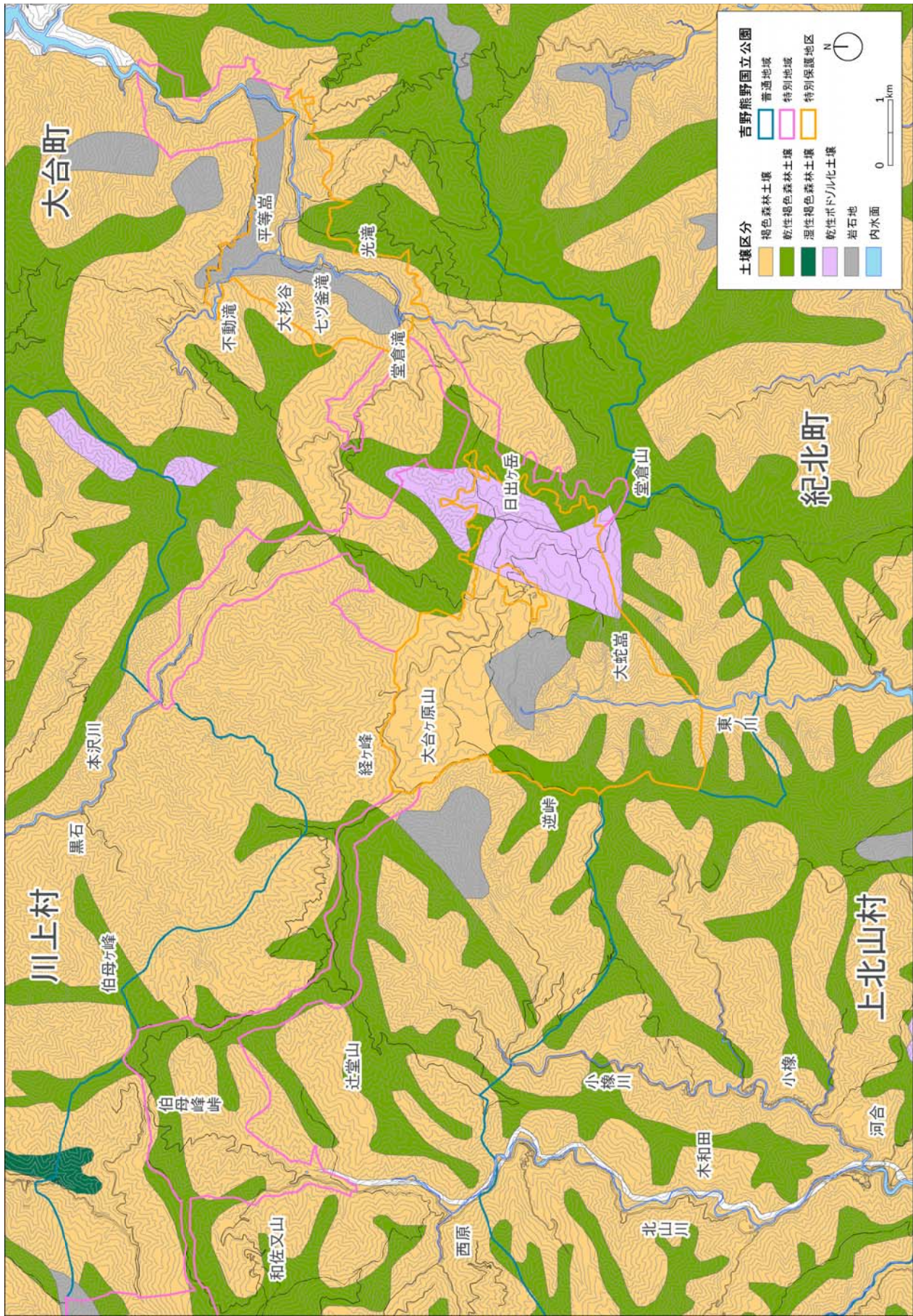


図 2-5：土壌区分図（出典：20 万分の 1 土地分類基本調査）

(2) 気象

大台ヶ原は、年間降水量が3,500mm以上と近畿地方のみならず、屋久島と並ぶ国内有数の多雨地域である。これは、大台ヶ原が熊野灘に面する南東向きの斜面に位置しており、熊野灘までの距離が約20kmと近く、吹き上げられた湿気の高い空気が標高差1,500mの斜面で冷やされることにより、雲が発生しやすくなっているためである。特に台風が日本付近を多く通過する季節である8月～9月の月別降水量の平年値は600mm以上と非常に多くなっている¹。

(3) 植生区分

大台ヶ原周辺は、自然植生がまとまって分布する貴重な地域である。紀伊半島において、この地域では少ないトウヒ群落を含むコケモモトウヒクラス域自然植生は、大台ヶ原と八経ヶ岳を含む大峰山系の稜線部のみに孤立して分布しており、ブナースズタケ群落を含むブナクラス域自然植生は、大台ヶ原を含む台高山系や八経ヶ岳を含む大峰山系、護摩壇山周辺等分布が限られており、貴重な植生となっている²。また筏場方面にはトガサワラ林が見られ、大台辻から川上辻ではブナの大木と混じり、原始的な雰囲気のある森林が分布している³。

大台ヶ原では、昭和30年代の伊勢湾台風等による樹木の風倒、ニホンジカの個体数の増加、公園利用者の増加等複合的な要因により、トウヒ林等の森林植生の衰退が進行しており、生物多様性の低下が危惧されている。こうした状況を受け、環境省では昭和61(1986)年の「トウヒ林保全事業」に始まり、「大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画」策定(平成13(2001)年)、大台ヶ原自然再生検討会の設置(平成14(2002)年)等を経て、平成17(2005)年1月からは「大台ヶ原自然再生推進計画」に基づき、自然再生に取り組んでいる⁴。

大杉谷周辺は大きく3つの植生に分けられる。登山口から千尋滝にかけては暖温帯の常緑広葉樹林が分布し、シイ・カシの萌芽林やカシ類、タブノキが主体となっている。千尋滝から栗谷にかけては中間温帯の森林となっており、特にツガが優占することが特徴的である。下流部にはシイ・カシ萌芽林が、上流部にはツガハイノキ群集が分布する。栗谷から日出ヶ岳にかけては、ブナ林が広がり、原生林もしくはそれに近い自然林として特定植物群落に選定されている⁵。

¹ 環境省近畿地方環境事務所「大台ヶ原自然再生推進計画－第2期－」、平成21年3月、4頁

² 同上、6頁

³ 環境省近畿地方環境事務所「吉野熊野国立公園 大台ヶ原・大杉谷地域整備基本計画」、平成19年9月、4頁

⁴ 環境省近畿地方環境事務所「大台ヶ原自然再生推進計画－第2期－」、平成21年3月

⁵ 環境省近畿地方環境事務所「吉野熊野国立公園 大台ヶ原・大杉谷地域整備基本計画」、平成19年9月、5頁

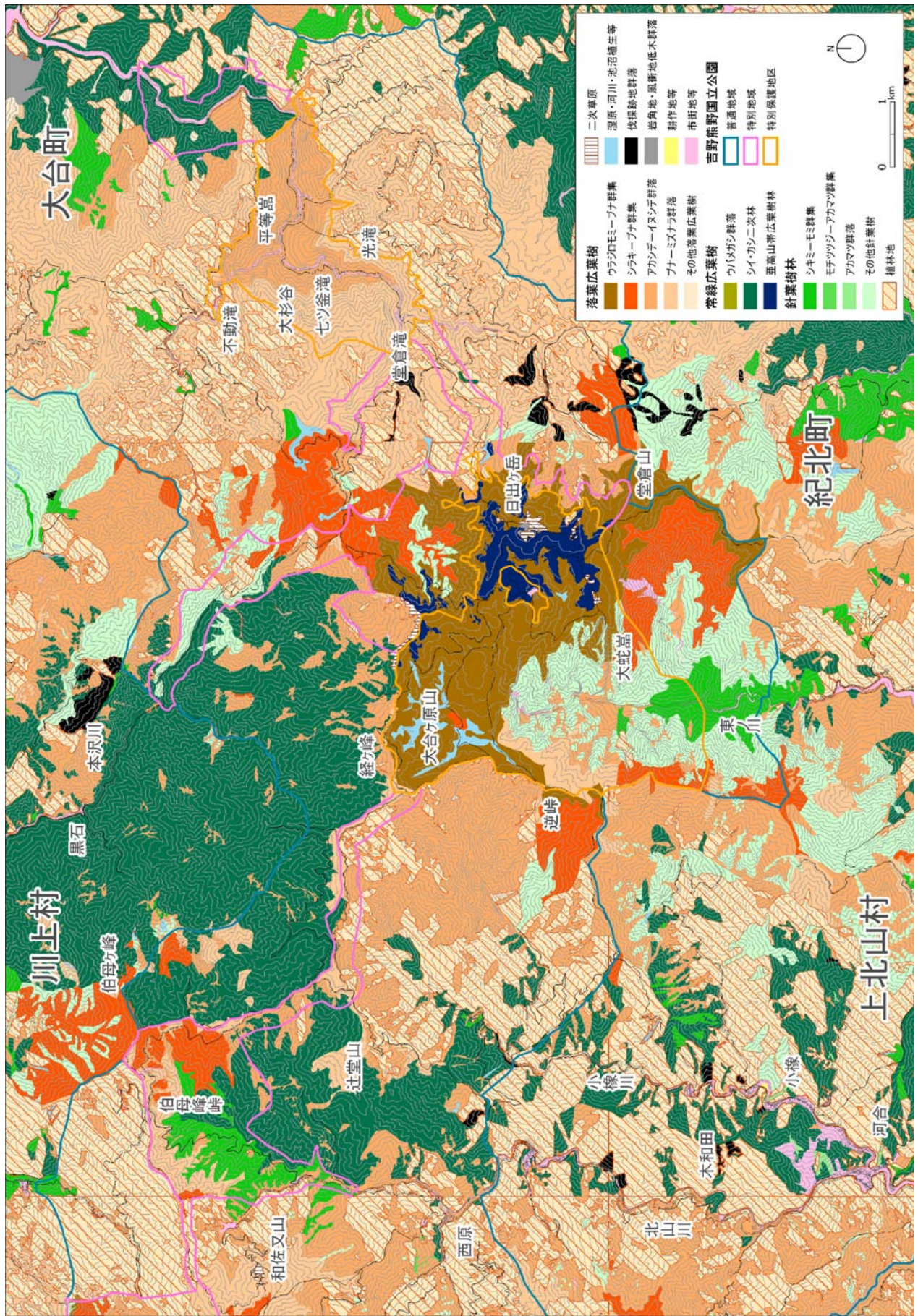


図 2-6：植生区分図（出典：自然環境保全基礎調査第 6・7 回植生調査）

(4) 動物の分布状況

対象地域に生息する動物としては、哺乳類では、国指定天然記念物のヤマネやニホンカモシカ、絶滅のおそれのある地域個体群としての「近畿地方のツキノワグマ」が挙げられている。鳥類ではオオタカ、ルリビタキ、メボソムシクイ等が、両生類では、三重県及び奈良県指定天然記念物のオオダイガハラサンショウウオ等の生息が報告されている。

表 2-1：大台ヶ原管理計画区に生息する希少な動物

区分	種名	概要
哺乳類	ヤマネ	国指定天然記念物 ※1 三重県RDB（絶滅危惧Ⅱ類） 奈良県RDB（希少種）
	ヤチネズミ	三重県RDB（絶滅危惧Ⅱ類） 奈良県RDB（希少種）
	クロホオヒゲコウモリ	環境省RDB（絶滅危惧ⅠB類） 奈良県RDB（絶滅危惧種）
	ノレンコウモリ	環境省RDB（絶滅危惧Ⅱ類） 三重県RDB（絶滅危惧ⅠA類） 奈良県RDB（絶滅寸前種）
鳥類※2	ルリビタキ	奈良県RDB（希少種）
	メボソムシクイ	三重県RDB（情報不足） 奈良県RDB（希少種）
	ビンズイ	奈良県RDB（希少種）
	コマドリ	三重県RDB（情報不足） 奈良県RDB（希少種）
	キビタキ	三重県RDB（準絶滅危惧種） 奈良県RDB（希少種）
両生類	オオダイガハラサンショウウオ	環境省RDB（絶滅のおそれがある地域個体群） 三重県RDB（絶滅危惧Ⅱ類） 奈良県RDB（郷土種） 県指定天然記念物（三重県、奈良県）
昆虫類	オオダイルリヒラタコメツキ	三重県RDB（準絶滅危惧種）
	セダカテントウダマシ	三重県RDB（絶滅危惧Ⅱ類）

※1：ヤマネは、近年発表された全国的な生息確認調査より、一部出現しない地域はあるが、概ね本州・九州・四国・隠岐にほぼ連続的に分布していることが明らかにされており「NT（準絶滅危惧種）」には相当しないと判断されたため、新カテゴリーでは「ランク外」に変更された。出典：【哺乳類】環境省第4次レッドリスト(2012)新旧対照表

※2：当地域は、ルリビタキ、メボソムシクイ、ビンズイ等主に中部地方以北で繁殖する鳥の、西日本での数少ない繁殖地である。

出典：環境省近畿地方環境事務所「吉野熊野国立公園 大台ヶ原・大杉谷地域整備基本計画」、平成19年9月、4頁の表を参考に「環境省、第4次レッドリストについて(平成24年・25年)」、「三重県レッドデータブック2005」「平成17年奈良県版レッドデータブック」等でランク設定状況を確認。

表 2-2 : 大杉谷管理計画区に生息する希少な動物

区分	種名	概要
哺乳類	ヤマネ	国指定天然記念物 三重県RDB (絶滅危惧Ⅱ類) 奈良県RDB (希少種)
	紀伊半島のツキノワグマ	環境省RDB (絶滅のおそれがある地域個体群) 三重県RDB (絶滅危惧ⅠB類) 奈良県RDB (絶滅寸前種)
	ニホンカモシカ	国指定特別天然記念物
鳥類	クマタカ	環境省RDB (絶滅のおそれがある地域個体群) 三重県RDB (絶滅危惧ⅠB類) 奈良県RDB (絶滅危惧種)
両生類	オオダイガハラサンショウウオ	環境省RDB (絶滅のおそれがある地域個体群) 三重県RDB (絶滅危惧Ⅱ類) 奈良県RDB (郷土種) 県指定天然記念物 (三重県、奈良県)
昆虫類	ツマジロウラジャノメ	三重県RDB (準絶滅危惧種)

出典：環境省近畿地方環境事務所「吉野熊野国立公園 大台ヶ原・大杉谷地域整備基本計画」、平成 19 年 9 月、5 頁の表を参考に「環境省、第 4 次レッドリストについて (平成 24 年・25 年)」、「三重県レッドデータブック 2005」 「平成 17 年奈良県版レッドデータブック」等でランク設定状況を確認。

3. 対象地域の利用特性

対象地域における利用の中心地である大台ヶ原、大杉谷について利用状況を整理する。

(1) 大台ヶ原の利用特性

1) 概要

① 地域特性

大台ヶ原は、年間約 10 万人の利用者数を記録する、近畿でも有数の山岳観光地である。歴史的には、大峰山脈が霊場として多くの信仰登山者を集めてきたのに対し、大台ヶ原は地形や気象条件の厳しさから、明治以前は人が近づくことがほとんどない地域であった。大台ヶ原の利用は、明治時代の信仰、修行の場としての利用が始まりであり、その後、大正時代から登山者が増加し始め、登山利用が主流となったと考えられる。昭和 11 (1936) 年に吉野熊野地域が国立公園に指定され、昭和 15 (1940) 年には大台ヶ原地区が特別地域に指定された。昭和 36 (1961) 年に県道大台ヶ原川上線 (通称：大台ヶ原ドライブウェイ) が開通してからアクセスが容易になり、登山から観光対象の山へと変貌していった¹。

現在、大台ヶ原では、様々な要因により森林生態系の衰退が進行しており、このまま森林が衰退すると、紀伊半島の生物多様性が劣化することにもつながる懸念がある。こうした現状や今後予想される状況に対処するため、国立公園としての景観的価値や利用の面だけでなく、生物多様性の保全の観点から大台ヶ原における自然再生に取り組んでいる。西大台地区においても森林生態系の衰退の兆候がみられ、今後の利用者の増加による様々な影響が懸念されているため、西大台の美しい自然環境を守り、将来にわたり静寂で豊かな自然を多くの利用者が享受できるよう、西大台地区が利用調整地区に指定されており、事前に申請をして認定を受けた者のみ西大台への立入りが可能となっている。

筏場方面は、吉野川支流本沢川の美しい溪流景観が連続し、尾根周辺ではトガサワラの大木が混じる景観や宮川源流域の山地景観が散見できる。古くに施工された苔生した石積工が所々に見られ、現在の登山道の施設として利用されている。木和田方面については、笹ノ峰周辺でトチノキの大木が散見でき、林間からは東ノ川を通じて大台ヶ原方面を眺望できる。雷峠方面は、林業用の柚道として発生し大台ヶ原への参詣道として利用されてきた歴史的経緯があるが、アプローチが悪く現在はあまり利用されていない²。

② 利用者数の推移

過去 20 年間の大台ヶ原の利用者数の推移をみると、平成 7 (1995) 年の約 32 万 2 千人をピークとして減少傾向にあり、平成 25 (2013) 年度には約 8 万 7 千人³となっている。

大台ヶ原の利用者数は、季節により大きな差がみられ、利用が集中するのは、ゴールデンウィークやシャクナゲの開花期の 5 月、夏休みやお盆の 8 月、秋の紅葉期の 10 月となっている。なお大台ヶ原ドライブウェイは 11 月下旬～ 4 月下旬までは積雪のため閉鎖される。

¹ 環境省近畿地方環境事務所「吉野熊野国立公園 大台ヶ原・大杉谷地域整備基本計画」、平成 19 年 9 月、9 頁

² 同上、30 頁

³ 正午の山上駐車場における駐車台数を用いて算出した推計利用者数である。出典：近畿地方環境事務所資料

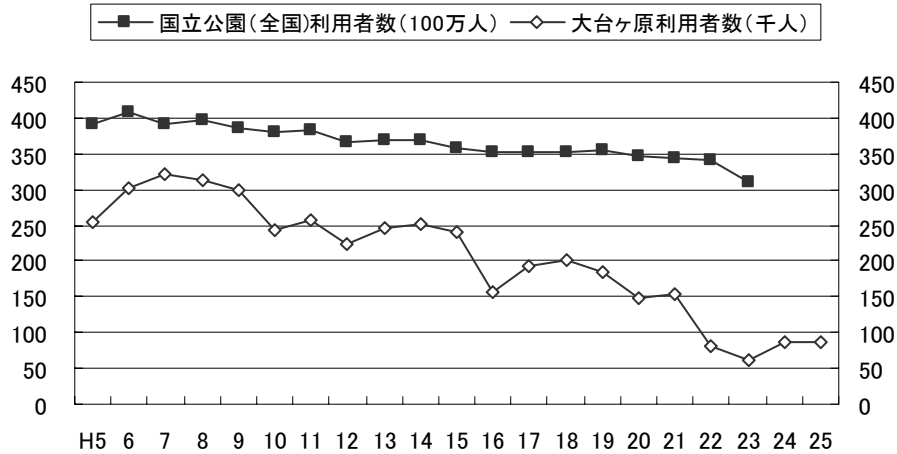


図 2-7: 全国の国立公園と大台ヶ原の利用者数の推移

※大台ヶ原利用者数については、平成 22 年度以降は、平成 20～22 年度の調査に基づく新たな係数により算出。
 ※国立公園（全国）利用者数は平成 23 年まで。
 ※国立公園（全国）利用者数：環境省自然環境局「自然公園の利用者の推移」、大台ヶ原利用者数：大台ヶ原ビジターセンター調べより作成

出典：近畿地方環境事務所資料より作成

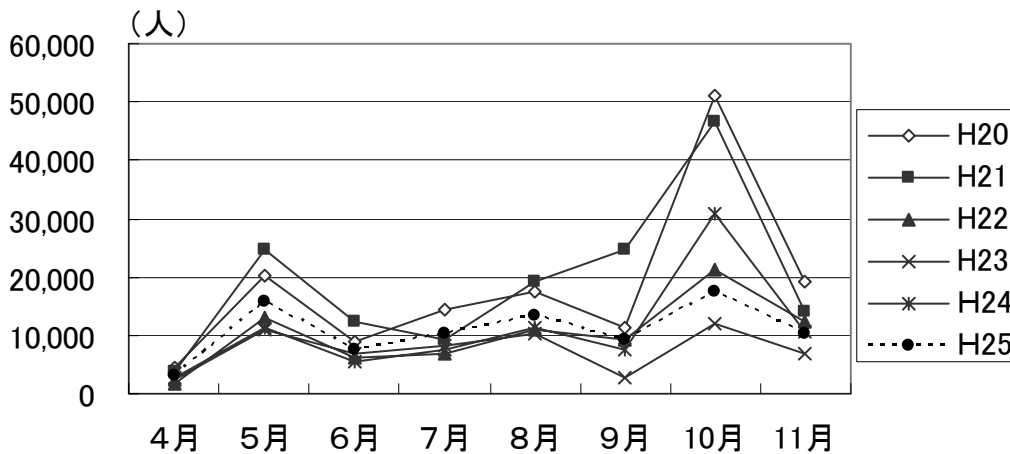


図 2-8: 月別利用者数の推移（大台ヶ原）

※平成 20～21 年度の利用者数は旧推計式により、平成 22～25 年度の利用者数は新推計式による。

出典：近畿地方環境事務所資料より作成

また西大台利用調整地区の入山者数は、利用調整の開始前までは、駆け込み需要とみられる入山があった平成 19 (2007) 年度を除き、年間 5,000 人程度であったが、利用調整の開始後は 1,100 人程度まで減少した。その後は増加傾向にあり、平成 24 (2012) 年度からは 2,700 人を超えている。

表 2-3：西大台利用調整地区の入山者数の推移

月	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
4月	80	179	166	51	43	21	40	42	56
5月	1,134	712	1,242	188	298	203	430	477	596
6月	409	390	1,060	166	107	240	183	256	228
7月	373	552	1,967	84	74	96	135	183	250
8月	546	884	5,550	121	107	152	264	252	335
9月	586	434	131	70	84	117	54	240	231
10月	1,321	1,439	299	268	286	563	428	839	717
11月	647	656	175	208	124	143	132	441	308
合計	5,096	5,246	10,590	1,156	1,123	1,535	1,666	2,730	2,721

※H17～19年度の「入山者数」は、入下山者カウンターによる値。H20～24年度は、「認定者数」から「キャンセル数」を減じた「推定立入人数」。

※4月の対象日数については、H20は4/23～30の8日間、H21は4/21～30の10日間、H22は4/22～30の9日間、H23は4/22～30の9日間、H24は4/27～30の4日間、H25は4/25～30の6日間。

出典：近畿地方環境事務所資料より作成

交通手段

大台ヶ原周辺地域への来訪者へのアンケート調査結果¹をみると、回答者の約81.1%が自家用車でアクセスしており、次いで路線バス、観光バスによる来訪者となっている。

大台ヶ原行き路線バスは「近鉄大和上市駅」から運行されており、大台ヶ原・上市駅間の路線バスの利用者数をみると、平成24（2012）年は3,681人と前年より大幅に増加した²が、平成25（2013）年には4,618人となった。

表 2-4：大台ヶ原等へのアクセス（バス利用）

行き先	備考
大台ヶ原	<ul style="list-style-type: none"> 近鉄大和上市駅から大台ヶ原行バス（1時間44分）、「大台ヶ原」下車 平日は1日1便、土日祝は1日2便が運行 運賃2,000円（荷物料金：別途200円） 運行期間はドライブウェイが開通する4月下旬～11月下旬に限定
上北山温泉「薬師湯」	<ul style="list-style-type: none"> 近鉄大和上市駅から湯盛温泉杉の湯行バス（35分）「湯盛温泉杉の湯」乗換、池原・下桑原行バス（1時間）「河合」下車、徒歩すぐ 平日・土日祝ともに1日2便が運行 運賃1,850円
和佐又山	<ul style="list-style-type: none"> 近鉄大和上市駅から湯盛温泉杉の湯行バス（35分）「湯盛温泉杉の湯」乗換、池原・下桑原行バス（38分）「和佐又口」下車、徒歩片道約2時間 平日・土日祝ともに1日2便が運行 運賃1,480円 ※臨時バス「霧氷号」は近鉄大和上市駅～和佐又口の区間で1月中旬～2月下旬の土・日祝日に運行（運賃1,480円）。
連絡先	奈良交通株式会社 奈良市大宮町1丁目1番25号 （お客様サービスセンター TEL：0742(20)3100）

出典：奈良交通株式会社「散策ガイド（川上村・上北山村・下北山村）」※便数等は平成26年2月3日調べ

¹ 本稿3.（3）、138頁を参照。

² 平成24年は例年と同様に近畿日本鉄道株式会社により、「大台ヶ原自然の森体感きっぷ」（4,120～6,300円、平成24年4月28日～11月24日、往復割引乗車券ほか特典あり）が発売されたほか、奈良交通株式会社により、「大台ヶ原・洞川周遊フリー乗車券」（4,500円、平成24年9月1日～11月23日、300枚限定、3日間有効）が発売された。出典：平成24年度吉野熊野国立公園西大台利用調整地区の管理運営に関する地域協働のあり方検討業務報告書（平成25年3月）近畿地方環境事務所

表 2-5：路線バス乗車人数の推移

年	上市駅発(行き)	大台ヶ原発(帰り)	上り下り合計
H15	4,685	4,355	9,040
H16	2,902	2,685	5,587
H17	2,875	2,677	5,552
H18	3,105	2,974	6,079
H19	2,873	2,772	5,645
H20	2,485	2,440	4,925
H21	2,221	2,125	4,346
H22	1,824	1,750	3,574
H23	2,076	2,026	4,102
H24	3,681	3,664	7,345
H25	—	—	4,618

(単位:人)

出典：近畿地方環境事務所資料より作成

利用動態

大台ヶ原における典型的な利用動態は、マイカー又は観光バスで山頂部にアクセスし、山上駐車場を起点として、日出ヶ岳、正木ヶ原、牛石ヶ原、大蛇岨などを有する「東大台」を周回する日帰り利用である¹。

西大台利用調整地区についても、利用者に義務づけられる事前レクチャーが大台ヶ原ビジターセンターで実施されるため、山上駐車場を起点として周回する利用形態が採られている。なお平成 24（2012）年度より、小処方面からの入山者に限定して上北山村商工会にて事前レクチャーを受講することが可能となっているが平成 24（2012）年度の実施実績はなかった²。

筏場方面は、大台ヶ原に至るルートとして利用されており、浸水空間を利用した単純往復も見られる。大台山頂部から栗谷、大台辻を経由する周回利用も見られる³。

木和田方面の利用者は少ないが、大台ヶ原に至るルートとして利用される。雷峠方面は公園歩道としての整備もされておらず、利用者が少ない⁴。

¹ 環境省近畿地方環境事務所「吉野熊野国立公園 大台ヶ原・大杉谷地域整備基本計画」、平成 19 年 9 月、9 頁

² 近畿地方環境事務所「平成 24 年度吉野熊野国立公園西大台利用調整地区の管理運営に関する地域協働のあり方検討業務報告書」、平成 25 年 3 月

³ 環境省近畿地方環境事務所「吉野熊野国立公園 大台ヶ原・大杉谷地域整備基本計画」、平成 19 年 9 月、30 頁

⁴ 同上



図 2-9 : 大台ヶ原マップ

出典：近畿地方環境事務所資料

2) 東大台の利用状況に関する現地調査

① 調査の目的

本調査は、東大台における利用状況、利用者の特性を把握することを目的とした。調査日は、東大台に利用が集中する紅葉シーズンの休日として、大型連休初日の平成 26 年 11 月 2 日（土）、及び 11 月 9 日（土）に実施した。

調査にあたっては、調査員が東大台周回線歩道を歩きながら、遭遇した利用者の年齢層、性別、グループ構成、登山装備（登山靴、トレッキングポール等）、利用行動（食事、休憩、カメラ撮影等）、について記録した。各日の調査コースは下表のとおりである。

なお、調査 1 日目には、山上駐車場におけるバス等の駐車状況、ドライブウェイにおける路肩駐車の発生状況についても調査した。

表 2-6 : 調査ルート

調査日・天候	調査ルート	備考
11 月 2 日（土） 10 時～15 時 ・曇り	山上駐車場～日出ヶ岳～正木峠～正木ヶ原～尾鷲辻～山上駐車場	山上駐車場におけるバス・バイクの駐車状況、バス・ツアー開催状況、ドライブウェイにおける路肩駐車発生状況について調査
11 月 9 日（土） 10 時～15 時 ・晴れ	山上駐車場～シオカラ吊り橋～大蛇岨～牛石ヶ原～尾鷲辻～山上駐車場	

② 調査結果

周回線歩道の利用状況

ア) 11 月 2 日（土）

東大台の「山上駐車場～日出ヶ岳～正木峠～正木ヶ原～尾鷲辻～山上駐車場」のルートにおいて、確認された利用者数は 245 人（時計周り 170 人、反時計回り 75 人）であった。また、同ルートで確認された同時滞在数は、日出ヶ岳山頂にて 185 人（12 時 10 分現在）、正木ヶ原にて 6 組 25 人、このうちコンロ使用 3 組（13 時 30 分現在）、尾鷲辻休憩所にて 2 組 4 人（14 時）が確認された。また、ペット連れの利用者は 3 組確認された。

表 2-7 : 11月2日(土)の調査結果(1/2)

区間	時計周り						区間	反時計周り					
	人数	男	階層	女	階層	特徴		人数	男	階層	女	階層	特徴
湧水まで	4	2	高齢者	2	高齢者		湧水まで						
小計	12	3	2 高齢者	1	2 高齢者		小計	9	7	3 高齢者	4	4 高齢者	軽装
		2	1 中年	1	1 中年				2	1 青年	1	1 青年	
		2	1 青年	1	1 青年								
		1	1 中年										
展望デッキまで	2	2	中年				展望デッキまで	1	1	中年			カメラ・軽装
小計	44	17	12 中年	5	5 中年		小計	6					
		4	2 中年	2	2 子ども	家族連れ							
		2	1 青年	1	1 青年								
		1		1	1 青年								
		2	1 青年	1	1 青年								
		2	1 青年	1	1 青年								
		1	1 青年										
		8	6 青年	2	2 青年								
		1	1 中年										
		2	1 青年	1	1 青年	軽装			2	1 高齢者	1	1 高齢者	
									2	1 青年	1	1 青年	
									1		1	1 青年	
		2	1 青年	1	1 青年	軽装							
展望デッキから木道休憩所まで	2	1	青年	1	青年		展望デッキから木道休憩所まで						
小計	19	2	1 青年	2	2 中年		小計	0					
		2	1 青年	1	1 青年								
		2	1 中年	1	1 中年								
		2	1 高齢者	1	1 高齢者								
		1	1 中年			写真撮影							
		2		2	2 青年								
		2	1 青年	1	1 青年								
		2	1 青年	1	1 青年								
		2	1 中年	1	1 中年								
休憩所から正木峠まで	4	1	青年	3	青年		休憩所から正木峠まで						
小計	47	1	1 青年				小計	21	2	1 高齢者	1	1 高齢者	軽装
		2	1 中年	1	1 中年								
		4		4	4 中年								
		2	1 青年	1	1 青年								
		5	2 中年・子ども	3	3 中年・幼児	家族連れ							
		5	1 中年	4	4 中年								
		8	2 中年	6	6 中年				5	3 中年親子	2	2 中年親子	
		5	3 中年	2	2 中年								
		2	1 青年	1	1 青年								
		3	1 青年	2	2 青年								
		2	1 青年	1	1 青年				3	3 青年			
		1	1 中年						2	1 青年	1	1 青年	
									2	1 中年	1	1 中年	
		1	1 中年						2	1 中年	1	1 中年	
									3	1 中年	2	2 中年親子	
		2		2	2 中年				2	1 青年	1	1 青年	
正木峠から尾鷲辻まで	2	1	青年	1	青年		正木峠から尾鷲辻まで	3	2	2 中年	1	1 中年	
小計	46	2		2	2 中年	親子	小計	8					
		2	2 中年・子ども										
		1		1	1 中年								
		1		1	1 中年								
		2	1 中年	1	1 中年								
		2	1 中年	1	1 中年								
		1	1 中年										
		2	1 中年	1	1 中年								
		1	1 中年										
		2	1 中年	1	1 中年								
		2	1 中年	1	1 中年								
		2	1 青年	1	1 青年								
		2		2	2 青年								
		2	2 中年親子										
		2	1 中年	1	1 中年								
		2	1 青年	1	1 青年								

表 2-8 : 11月2日(土)の調査結果(2/2)

区間	時計周り					特徴	区間	反時計周り					特徴
	人数	男	階層	女	階層			人数	男	階層	女	階層	
(続き)	6	5	中年	1	中年								
	5			5	中年		3	3	中年				
	3			3	青年		2	2	高齢者				
尾鷲辻から駐 車場まで	2	1	青年	1	青年		1	1	中年				工事関係者
小計	1	1	中年				5	5	中年				
	3						2	1	中年	1	中年		
							1	1	中年				
							2	1	高齢者	1	高齢者		
							2	1	高齢者	1	高齢者		
							2	1	青年	1	青年		
							2	2	青年				
							2	1	青年	1	青年	軽装	
							3	2	中年親子	1	中年		
							1	1	青年				
							2	1	青年	1	青年	軽装	
							2	1	青年	1	青年		
							2	1	中年親子	1	こども		
							2	1	青年	1	青年		
合計	171	83		88			75	47		28			

※階層については、青年(20~30代)、中年(40~50代)、高齢者(60代以上)とした



「山ガール」(10:00)



ビジターセンター前(11:00)



幼児を背負った親子連れ(11:20)



展望台(11:30)

※全て11月2日(土)に撮影



日出ヶ岳へ向かう石段 (11:50)



日出ヶ岳山頂周辺 (12:00)



山頂で昼食をとる利用者 (12:00)



正木峠の木道 (12:30)



正木ヶ原にて休憩する利用者 (13:00)



中道 (13:30)

※全て11月2日(土)に撮影

イ) 11月9日(土)

東大台の「山上駐車場～シオカラ吊り橋～大蛇岨～牛石ヶ原～尾鷲辻～山上駐車場」のルートにおいて、確認された利用者数は251人(時計回り71人、反時計回り180人)であった。同ルートで確認された同時滞在数は、シオカラ谷にて4組10人(11時30分現在)、大蛇岨分岐にて4組13人(12時10分現在。12時50分には3組7人になっていた)、大蛇岨にて6組14人(12時30分現在)、牛石ヶ原にて5組13人名(13時現在)、尾鷲辻休憩所にて2組8人(13時30分現在)が確認された。また、ペット連れの利用者は1組確認された。

表 2-9 : 11月9日(土)の調査結果(1/2)

区間	時計周り					特徴	区間	反時計周り					特徴
	人数	男	階層	女	階層			人数	男	階層	女	階層	
駐車場からシ オカラ吊橋ま 小計	11						駐車場からシ オカラ吊橋ま 小計	2	1	中年	1	中年	
								1	1	中年			
								2	1	中年	1	中年	
								1	1	高齢者			
								2	1	中年	1	中年	軽装
		9	9	中年・青年				4	2	中年・子ども	2	中年・子ども	親子連れ
								1	1	青年			
								2	1	高齢者	1	高齢者	
		シオカラ吊橋 から大蛇岨分 岐まで 小計	39	1	1	青年			休憩	シオカラ吊橋 から大蛇岨分 岐まで 小計	5	3	中年・子ども
							2	1	青年		1	青年	
							4	1	青年		3	中年・子ども	親子連れ、軽装
							1	1	高齢者				
							2	1	青年		1	青年	軽装
							3	3	青年				
							4	4	中年・青年				
							2	1	中年		1	中年	軽装
							2	1	中年		1	中年	軽装
							2	1	青年		1	青年	犬同伴、軽装
							2	1	中年		1	中年	
							1	1	中年				
							2	1	中年		1	中年	軽装
							2	2	青年		1	青年	
							2	1	青年		1	青年	
							3	1	中年		2	子ども	親子連れ
							4	4	高齢者		4	高齢者	
							6	6	青年				軽装
大蛇岨分岐～ 大蛇岨 小計	17			4	1	青年	1	青年	大蛇岨分岐～ 大蛇岨 小計		4	1	高齢者
		4	2	青年	2	青年	2	1		青年	1	青年	軽装
		2	1	青年	1	青年	4	4		中年			
		1	1	青年	1	青年	2	1		青年	1	青年	軽装
		4	1	中年	3	中年	3	1		中年	2	中年	
		2	1	青年	1	青年	3	3		青年			軽装
大蛇岨分岐～ 牛石ヶ原 小計	0						大蛇岨分岐～ 牛石ヶ原 小計	2	1	青年	1	青年	軽装
								2	2	青年	1	青年	軽装
								3	2	青年			
								4	4	青年			
								3	3	中年			
								2	2	中年			
牛石ヶ原～尾 鷺辻 小計	0						牛石ヶ原～尾 鷺辻 小計	3			3	中年	山ガール
								2	2	高齢者			
								1	1	中年			
								1	1	青年	1	青年	
								4	2	青年	2	青年	
								2	1	中年	1	中年	

表 2-10 : 11 月 9 日 (土) の調査結果 (2 / 2)

区間	時計周り					特徴	区間	反時計周り					特徴
	人数	男	階層	女	階層			人数	男	階層	女	階層	
								2			2	青年	山カール
								2	1	青年	1	青年	
								2			2	青年	山ガール
								2	1	青年	1	青年	
								4			4	青年	山ガール
								4	1	中年	3	中年	
								1			1	青年	山ガール
								2	1	青年	1	青年	軽装
								5	3	中年・子ども	2	中年・子ども	親子連れ
								1	1	中年			
								2	1	青年	1	青年	
								3	1	青年	2	青年	山ガール
								2	1	青年	1	青年	山ガール
尾鷲辻～駐車 場	3	1	中年	2	中年・子ども		尾鷲辻～駐車 場	2	1	青年	1	青年	
小計	1			1	青年		小計						
	4							2	1	中年	1	中年	
								2	1	中年	1	中年	
								2	1	青年	1	青年	軽装
苔探勝路 小計							苔探勝路 小計						
	0												
合計	71	39		32				180	107		73		

※階層については、青年 (20 ~ 30 代)、中年 (40 ~ 50 代)、高齢者 (60 代以上) とした



駐車場から入山 (10 : 00)



急な石段を上る (10 : 20)



解説板前で休憩する利用者 (10 : 30)



石段途中で休息をとる (10 : 50)

※全て 11 月 9 日 (土) に撮影



小型犬を連れた利用 (11:50)



大蛇岩分岐で休憩 (12:10)



「山ガール」のグループ (12:20)



大蛇岩からの展望を楽しむ (12:30)



牛石ヶ原での食事休憩 (13:00)



尾鷲辻の休憩所で休む利用者 (13:40)

※全て11月9日(土)に撮影

駐車場等

路肩駐車の状態をみると、11月2日（土）の10時35分現在で、山上駐車場入り口から1キロポスト（NO.10）まで113台、15時30分現在の同区間で84台の路肩駐車が確認された。また同日の公共交通バス（奈良交通）の降車人数は37人であった。

表 2-11：バス・バイク駐車状況（平成 25 年 11 月 2 日（土））

時刻	バス	バイク
10時40分現在	4台（岡山、和泉、大阪、練馬）	7台
15時30分現在	10台（上記に加え、和歌山、大阪、京都、神戸、和泉、京都）	84台

表 2-12：山上駐車場で確認されたバス・ツアー（平成 25 年 11 月 2 日（土））

岡山：近畿の尾根紅葉の大台ヶ原と大蛇くらからの絶景 和泉：岩崎元郎さんと登ろう新日本百名山 大阪：大台ヶ原ハイキング 練馬：毎日新聞旅行 大台ヶ原と大峰山 和歌山：読売旅行大台ヶ原ハイキング	大阪：紅葉の大台ヶ原ハイキング 京都：ラベルなし 神戸：大台ヶ原ハイキング（千里山バス） 和泉：紅葉の大台ヶ原（東大台） 京都：たっぷり4時間秋の大台ヶ原ハイキング (10件)
---	---



ドライブウェイの路肩駐車（11/2 10:00）



山上駐車場（11/2 10:40）



山上駐車場（11/2 15:00）



公共交通バスでの来訪者（11/2 10:40）



やや空きが見られる駐車場 (11/9 10:00)



バイク 15 台が駐車 (11/9 15:00)

ウ) 東大台の利用特性

本調査で確認された東大台の利用者の特徴は、以下のようにまとめられる。

【属性・グループ構成】

- ・利用者の性別比は男性 (55.5%)、女性 (44.5%) であった (n=497¹)。
- ・グループ構成は、男女 2 人や 2～3 人の少人数グループ利用者が大半 (62.9%) であり、次いで一人 (17.2%) となっており、10 名以上の団体での利用は少なかった (n=186²)。
- ・ガイド付きのグループや家族連れも少ない。
- ・年齢層をみると、中年層 (48.1%) と青年層 (39.2%) の占める割合が大きい (n=497)。
- ・連休初日にはドライブウェイが満車となり、路肩駐車が発生するなど、マイカーでの来訪が中心となっている。バイクの駐車台数も 80 台を超える等、バイクでの来訪も確認された。

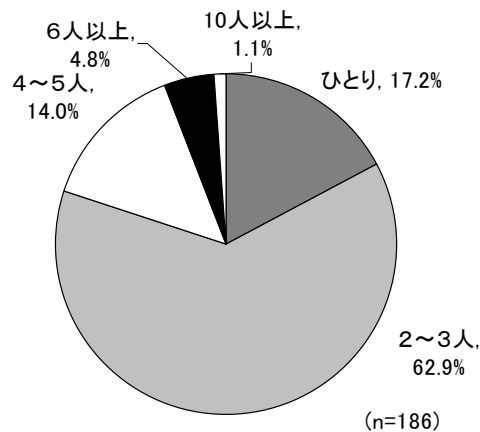


図 2-10 : グループ構成比

¹ 母数はルート上で確認された利用者数 (表 2-7～表 2-10 掲載分) であり、同時滞在数としてカウントした利用者は含まない。

² 母数はルート上で確認された利用者 (表 2-7～表 2-10) のグループ数。

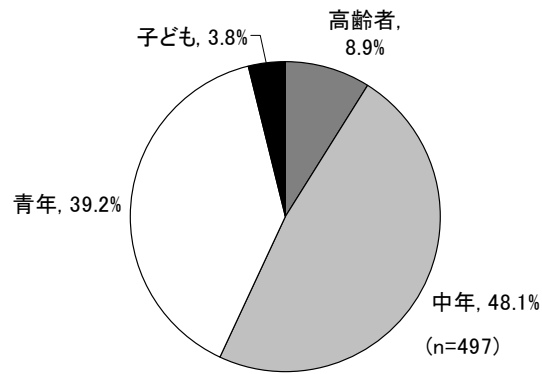


図 2-11 : 年齢層の構成比

【登山装備】

- ・全体として、軽装利用者は少なく、登山用の服装が大半であった。
- ・50～60代を中心に、トレッキングポールの利用が見られた。
- ・若い女性の中には、いわゆる「山ガール」的な装備が目立った。
- ・簡単なガイドマップを持参して歩道を巡る利用者が多く見られた。

【利用行動】

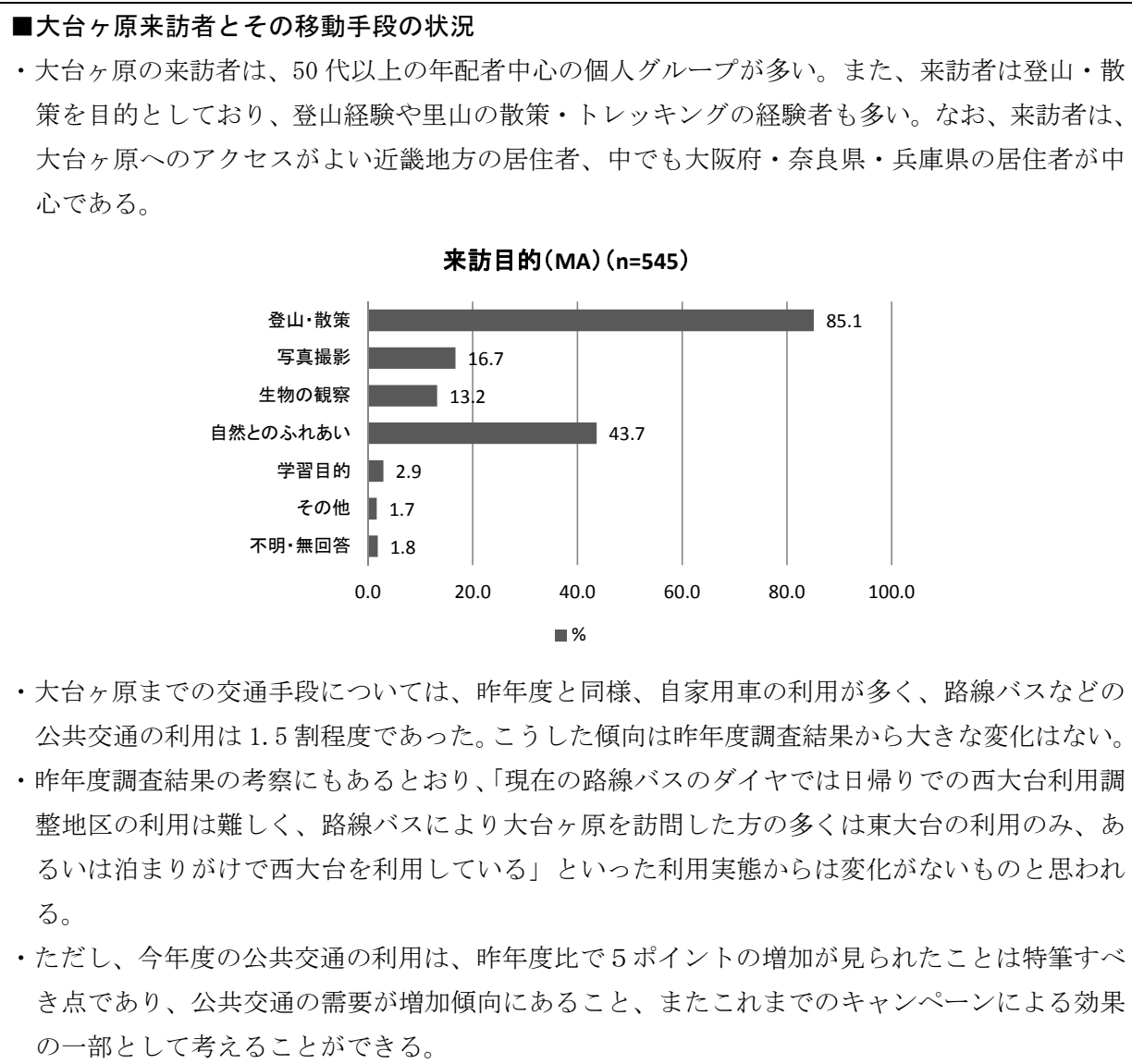
- ・総じて、東大台には、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の利用者が来訪していた。
- ・日出ヶ岳や大蛇峠等、展望の良い場所では、写真撮影を楽しむ姿が見られた。
- ・利用者は、飲食後のごみの持ち帰り等のマナーを守りつつ、登山やトレッキングを楽しんでいることが確認できたが、一部にはペットを連れて散歩する利用者も見受けられた。

3) 西大台の利用状況に関するアンケート調査（近畿地方環境事務所実施）

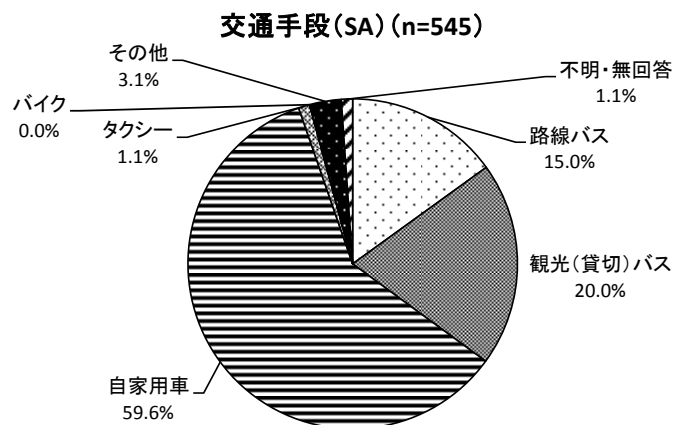
環境省近畿地方環境事務所では、西大台利用調整地区の利用状況や課題を把握することを目的に、毎年、西大台利用調整地区の事前レクチャー受講者を対象としたアンケート調査を実施している。

平成 25 年度アンケート調査結果¹からは、大台ヶ原への来訪は自家用車利用が中心であるが公共交通の需要が増加傾向にあること、西大台利用調整地区への来訪者は宿泊を伴う行程が半数以上であること、5～6時間かけて西大台を一周するルートが多いこと等が明らかになった。また施設整備に関しては、携帯用トイレブースの設置の意向については昨年度アンケートに比べて「必要ない」との回答の割合が減少したことが報告された。

表 2-13：平成 25 年度アンケート調査結果の概要

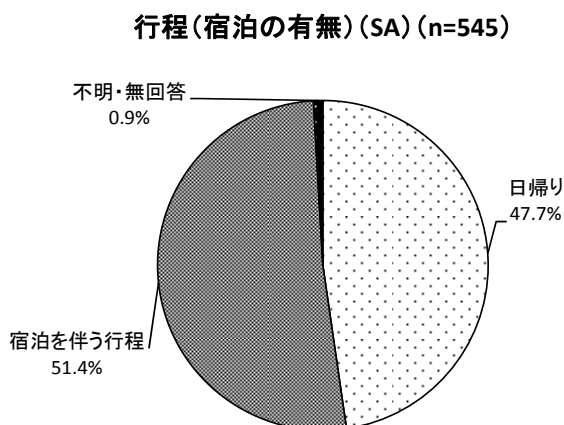


¹ 「西大台利用調整地区」の事前レクチャー受講者を対象に 2,615 部のアンケート調査票を配付、545 部（回収率 20.8%）の回答を得た。調査期間は平成 25 年 4 月 25 日～11 月 30 日である。出典：自然産業研究所「平成 25 年度グリーンワーカー事業（吉野熊野国立公園西大台利用調整地区アンケート調査等業務）報告書」、平成 26 年 1 月

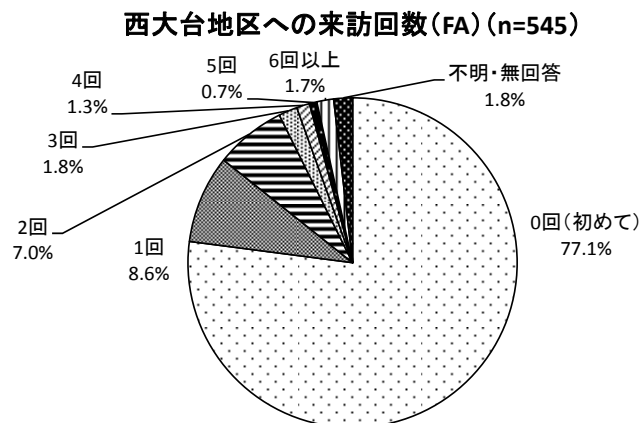


■西大台利用調整地区の利用について

- ・ 宿泊の有無を調査したところ、「宿泊を伴う行程」と回答した来訪者が来訪者全体の半数以上を占めた。

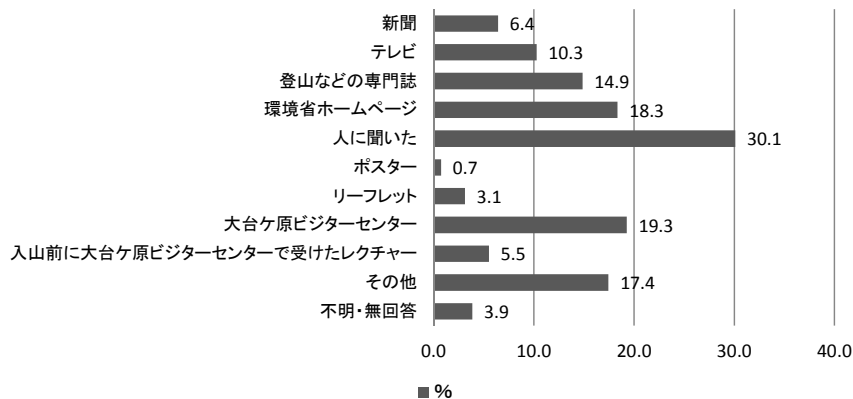


- ・ 昨年度調査結果と同様、大台ヶ原の来訪者はリピーターが多い一方で、西大台利用調整地区の利用については初めての人が多数であった。



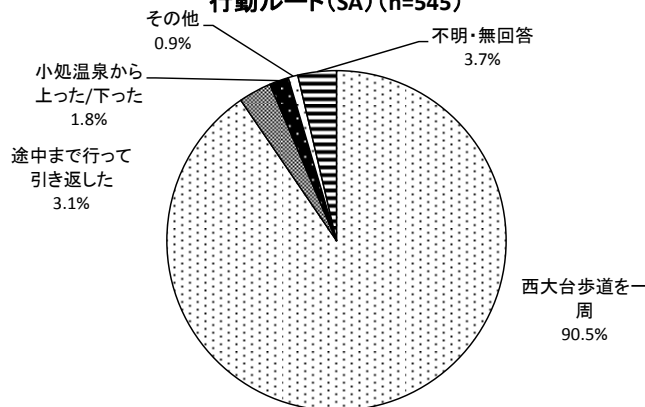
- 西大台利用調整地区の制度（事前に立入りの申請が必要など）を知ったきっかけは、人づてやインターネットが多い。なお、アンケート回答者の意見では、入山手続への不便さ（当日受付ができないことや入山日を変更すると再度申請手続と入山料が必要になる点など）が多く挙げられた。

制度に関する認知のきっかけ(MA) (n=545)



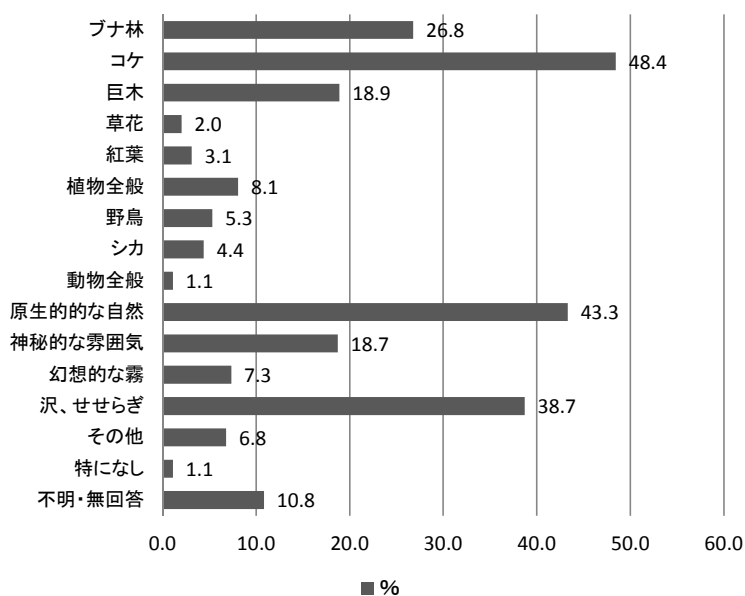
- 西大台利用調整地区の利用日は、レクチャーの受講日と同様、紅葉のシーズンに重なる。しかし、今年度の調査結果では紅葉シーズンの終わりに近い「11月1日～11月10日(12.8%)」の利用が最多となった。
- 利用者は前日もしくは当日朝にレクチャーを終えた後、8時～9時頃に入山し、5時間～6時間かけて西大台歩道を一周して、14時～15時に下山するケースが大半である。中には途中で引き返すケースも見られるが、その理由としては、雨天の影響や路線バスの時間が挙げられた。

行動ルート(SA) (n=545)



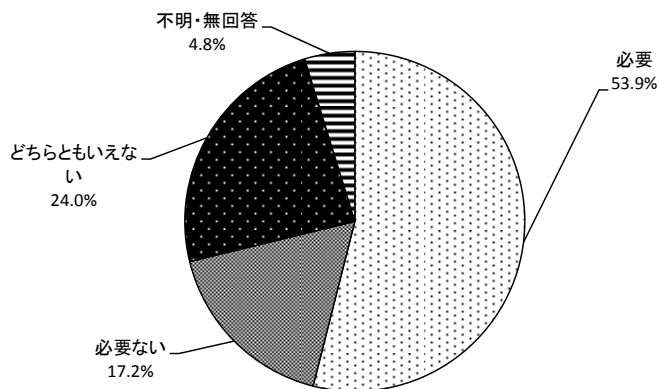
- 西大台利用調整地区の満足度は高く、大半が再訪を希望している。
- 西大台利用調整地区を訪れて印象に残ったことは、「コケ(48.4%)」が最も多く、次いで「原生的な自然(43.3%)」「沢、せせらぎ(38.7%)」の順となった。

印象に残ったこと(MA、3つまで) (n=545)



・携帯用トイレブースの設置の意向については、昨年度のアンケート結果（「必要（44.6%）」「どちらともいえない（30.0%）」「必要ない（20.5%）」、n=659）に比べ、「必要ない」との回答の割合が減少（17.2%）している。

携帯用トイレブースの設置の意向(SA) (n=545)



出典：株式会社自然産業研究所「平成 25 年度グリーンワーカー事業（吉野熊野国立公園西大台利用調整地区アンケート調査等業務）報告書」、平成 26 年 1 月 より抜粋

(2) 大杉谷の利用特性

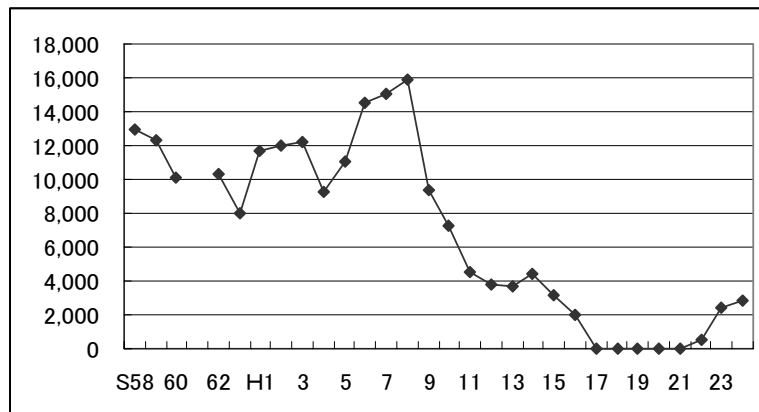
地域特性

大杉谷のメインルートである大杉谷登山歩道は、岩盤をコの字型に開削した区間や溪床際を通る箇所もあり、常時濡れた道は滑りやすく、危険箇所が多い。また長距離のため、縦走には山小屋等山中での宿泊を要する。気象変化の激しいV字の急峻な溪谷にあって、増水や落石などの不確定要素が多く、登山者には相応の体力、装備、一定レベル以上の経験が求められる¹。

利用者数の推移

平成16(2004)年の台風21号の影響²による災害発生による閉鎖以前から、大杉谷登山歩道の利用者は減少傾向にあり、平成8(1996)年の約1万6千人をピークに減少し続けていた。登山道が再開した後も、平成22(2010)年度483人、23(2011)年度2,405人、24(2012)年度2,824人と低い値に留まる。来春には全線が開通する³ため、利用者の急増が予想されている⁴。

年度	利用者数	調査方法	年度	利用者数	調査方法
S58	13,000	C	H10	7,247	A
59	12,300	C	11	4,571	A
60	10,100	B	12	3,828	A
61		データなし	13	3,667	A
62	10,330	B	14	4,456	A
63	8,050	B	15	3,131	A
H1	11,700	B	16	2,032	C
2	12,000	B	17	0	
3	12,200	B	18	0	
4	9,230	B	19	0	
5	11,100	A	20	0	
6	14,540	A	21	0	
7	15,037	A	22	483	
8	15,936	A	23	2,405	
9	9,319	A	24	2,824	



※調査方法 A 観光レクリエーション施設の入場券売上枚数等から入込客数を推計したもの。
 B 観光レクリエーション施設の入場券売上金額等から入込客数を推計したもの。
 C 観光レクリエーション地周辺の旅館の宿泊客数や売店等の売上金額等から入込客数を推計したもの。
 ※平成16年は、9月の災害以降、登山道閉鎖。平成22年は10～11月の2ヶ月間のみ。
 ※平成22年の推計は、登山届×1.5
 平成23、24年の推計は、登山届×2

出典：三重県資料より作成

図 2-12 : 大杉谷登山歩道の利用者数推移

¹ 環境省近畿地方環境事務所「吉野熊野国立公園 大峯山系地域整備基本計画」、平成18年9月、10頁

² 平成16(2004)年9月28日～29日に三重県を襲った台風21号の影響により、登山歩道51箇所、吊り橋10橋・桁橋4橋が被災。平成20(2008)年より復旧事業を開始、随時共用を開始している。平成25(2013)年度以降の整備区間は七ツ釜滝避難小屋～堂倉滝の区間(L=1500m)としている。出典：大杉谷登山センター資料、三重県資料

³ 平成26年4月25日(金)に大杉峡谷オープニングセレモニーが行われる予定である。出典：大杉谷登山センター資料

⁴ 平成25年10月25日実施のヒアリング調査より(詳細は本稿、4.(3)2)を参照

交通手段

大杉谷の登山道入り口（第3発電所前）までの道路は、道幅が非常に狭く対向するのも難しい場所が多いこと、駐車場も10台程度と狭いことから、利用者の安全確保のために下記の登山バスの利用が推奨されているが、利用時は4名以上での予約が必要となる¹。同バスは、道の駅「奥伊勢フォレストピア」等から運行されている。

表 2-14：大杉峡谷へのアクセス（バス利用）

（往路） 三瀬谷方面から 登山口へ	乗車場所 1：道の駅奥伊勢おおだい 10：30 発 乗車場所 2：奥伊勢フォレストピア 10：45 頃 下車場所：大杉谷登山道 12：00 着予定
（復路） 登山口から 三瀬谷方面へ	乗車場所 1：大杉谷登山道 12：10 発 下車場所 1：奥伊勢フォレストピア 13：25 着 下車場所 2：道の駅奥伊勢おおだい 13：40
運行期間	4月28日～6月30日（1日1便）
料金設定	乗車/降車地が道の駅：2,500円 乗車/降車地がフォレストピア：2,000円 ※大人・こども同料金
連絡先	エス・パール交通株式会社 三重県多気郡大台町上三瀬 265 番地 3 登山バス専用ダイヤル：090-6398-8901 / 予約申込専用 FAX：0598-82-3595
備考	登山者の利便性向上と、事故防止の為、4名以上の予約があった場合、上記の要領でバスを運行する。

出典：大台町観光協会資料「大杉峡谷へのアクセスについて」<http://web-odai.info/bus.html>

利用動態

大杉谷の利用動態に関する大台町等へのヒアリング調査²結果からは、大杉谷登山道の閉鎖が大台ヶ原利用者の減少にも大きく影響したこと、現在も年間40～50人が大台ヶ原山上に宿泊して大杉谷を下りており、来年大杉谷が再開すれば、大台ヶ原の利用者数や利用形態にも大きな影響があると思われること、かつては川上村の柏木から白髭岳に登り大杉谷に下りるコースがよく利用されていたが、大杉谷閉鎖により利用されなくなったこと、などが明らかとなった。

また主要な宿泊施設「桃の木山の家」へのヒアリング³からは、平成22（2010）年度の営業再開後の宿泊者数は平成23（2011）年度で300～400人程度、平成24（2012）年度は862人であったこと、宿泊者は大杉溪谷登山口から登ってくる人がほとんどで上から来る人は少ない（バス利用で大台ヶ原山頂から入山すると、出発が11時から12時になり日没までに桃の木小屋に到達できないため）こと、大台ヶ原側から入山して栗谷小屋に1泊して大台町側に下りるといった利用者は全体の1割弱程度とのこと、桃の木小屋と栗谷小屋に2泊して登る利用者も少数みられること、等が報告された。

¹ エス・パール交通株式会社「大杉峡谷登山バス 運行内容の紹介」<http://エスパール交通.com/oosugikyokoku/detail.html>

² 平成25年10月25日実施（ヒアリング内容の詳細は本稿、4.（3）2）を参照）

³ 平成25年11月12日実施（ヒアリング内容の詳細は本稿、4.（3）2）を参照）



図 2-13 : 大杉谷登山マップ

出典：財団法人大杉谷登山センター資料

(3) 大台ヶ原周辺地域における利用実態に関するアンケート調査結果

1) 調査概要

① 目的

本アンケート調査は、大台ヶ原の周辺地域（上北山村・川上村・大台町）への来訪者を対象に、大台ヶ原周辺地域の利用の実態を把握することを目的として実施した。

② 調査手法及び回収数

調査は、大台ヶ原の周辺地域の主な立ち寄り場所である以下の8施設において留置き法により実施した。なお調査期間は、平成25（2013）年10月5日（土）から11月19日（火）の45日間とし、計132票の回答を得た。各施設における回収数の内訳は下表のとおりである。

表 2-15：調査票留置き場所・調査票回収数

施設名	住 所	回収数
①山幸彦のもくもく館 (川上村林業資料館)	奈良県吉野郡川上村西河 486	0 票
②ホテル杉の湯	奈良県吉野郡川上村迫 695	11 票
③道の駅「杉の湯川上」	奈良県吉野郡川上村迫 695	9 票
④森と水の源流館	奈良県吉野郡川上村迫 590-2	8 票
⑤道の駅「吉野路上北山」	奈良県吉野郡上北山村大字河合字ハジ 1-1	4 票
⑥上北山温泉 薬師湯	奈良県吉野郡上北山村大字河合 553-2	49 票
⑦小処温泉	奈良県吉野郡上北山村大字小椽 665	35 票
⑧奥伊勢フォレストピア	三重県多気郡大台町菌 993	16 票
合計（8箇所）		132 票



留め置きアンケートの設置状況（左：道の駅「吉野路上北山」、右：小処温泉）

③ 過年度アンケート結果との比較

大台ヶ原周辺地域では、平成 18（2006）年度に利用状況に関するアンケート調査¹を実施している。本調査結果と、平成 18 年度結果と比較することで、利用状況の変化を把握する。

表 2-16：平成 18 年度アンケート調査の概要

調査目的	大台ヶ原周辺地域に立ち寄った観光客が、奈良県南部から和歌山・三重地域をどのように流動しているのか、旅行中の消費行動や大台ヶ原における自然体験のニーズ等を把握する。
調査手法と回収数	下記の 2 つの方法で実施、全回収数は 253 であった。 ①対面式アンケート：平成 18 年 10 月 9 日（祝）、10 月 22 日（日）の 2 日間、道の駅「杉の湯川上」道の駅「吉野路上北山」にて実施、回収数は 199。 ②留置アンケート（回収箱又は郵送回収）：平成 18 年 10 月 21 日（土）～11 月 16 日（木）の間、入之波温泉、杉の湯川上、小処温泉、ホテルかみきた、森と水の源流館の 5 箇所にて実施、回収数は 54。
質問内容	①利用者属性（年齢、性別、居住地、グループ構成） ②交通・旅程（利用交通、行程、立ち寄り先、宿泊先） ③消費行動（消費額：目的地別の予定額及び支払額、消費地） ④旅行の目的・要望（施設立ち寄りの主な目的、参加したい自然体験プログラム）
備考	本調査では「大台ヶ原周辺地域」を <u>上北山村及び川上村</u> と定義している。

出典：環境省近畿地方環境事務所「平成 18 年度大台ヶ原自然再生整備事業利用対策業務報告書」、平成 19 年 3 月、I-67 頁

¹ 環境省近畿地方環境事務所「平成 18 年度大台ヶ原自然再生整備事業利用対策業務報告書」、平成 19 年 3 月、I-67 頁～87 頁

2) 調査結果

① 回答者自身について

ア) 居住地

回答者の居住地について質問したところ、大台ヶ原の周辺地域へは「大阪府」(25.8%)の居住されている方が最も多く来訪しており、次いで「奈良県」(16.7%)、「三重県」(12.1%)、「兵庫県」(11.4%)から多くの方が来訪されていることが把握できた。

回答者の居住地を地方別にみると、大台ヶ原の周辺地域が位置する「近畿地方」(64.4%)から来訪者の大半が訪れており、次いで「東海地方」(16.7%)が多く訪れていることが把握できた。また、少数ではあるが、「信越地方」、「関東地方」、「中国地方」、「北陸地方」、「四国地方」の遠方からも大台ヶ原の周辺地域へ来訪される方がいることも把握できた。

回答者の居住地を市町村別にみると、大台ヶ原の周辺地域へは「大阪市」・「奈良市」(ともに4.5%)に居住されている方が最も多く来訪していることが把握できた。

平成18年度アンケート結果と比較すると、大阪府及び奈良県の構成比合計が、65.2%から42.5%に減少していること、三重県や兵庫県からの来訪者の構成比が増えていることがわかる。

表 2-17 : 回答者の居住地

地方	都道府県	回答者数	構成比
近畿	大阪府	34	25.8%
	奈良県	22	16.7%
	兵庫県	15	11.4%
	和歌山県	7	5.3%
	京都府	6	4.5%
	滋賀県	1	0.8%
	小計	85	64.4%
東海	三重県	16	12.1%
	愛知県	3	2.3%
	岐阜県	3	2.3%
	小計	22	16.7%
信越	長野県	4	3.0%
	小計	4	3.0%
関東	東京都	3	2.3%
	千葉県	1	0.8%
	小計	4	3.0%
中国	山口県	2	1.5%
	島根県	1	0.8%
	小計	3	2.3%
北陸	福井県	2	1.5%
	小計	2	1.5%
四国	香川県	1	0.8%
	小計	1	0.8%
不明		11	8.3%
合計		132	100.0%

表 2-18 : 回答者の居住地の詳細

地方	都道府県	市区町村	回答者数	構成比	
近畿	大阪府	大阪市	6	4.5%	
		堺市	5	3.8%	
		池田市	4	3.0%	
		吹田市	3	2.3%	
		河内長野市	2	1.5%	
		河南町	2	1.5%	
		東大阪市	2	1.5%	
		和泉市	2	1.5%	
		羽曳野市	1	0.8%	
		貝塚市	1	0.8%	
		熊取町	1	0.8%	
		高槻市	1	0.8%	
		藤井寺市	1	0.8%	
		豊中市	1	0.8%	
		不明	2	1.5%	
		小計	34	25.8%	
		奈良県	奈良市	6	4.5%
			吉野町	2	1.5%
			生駒市	2	1.5%
			大和高田市	2	1.5%
	天理市		2	1.5%	
	橿原市		1	0.8%	
	葛城市		1	0.8%	
	五條市		1	0.8%	
	御所市		1	0.8%	
	大淀町		1	0.8%	
	不明		3	2.3%	
	小計		22	16.7%	
	兵庫県		神戸市	3	2.3%
			尼崎市	3	2.3%
			三木市	2	1.5%
		西宮市	2	1.5%	
		伊丹市	1	0.8%	
		川西市	1	0.8%	
		宝塚市	1	0.8%	
		明石市	1	0.8%	
		不明	1	0.8%	
		小計	15	11.4%	
		和歌山県	橋本市	3	2.3%
			海南市	2	1.5%
			岩出市	1	0.8%
	不明		1	0.8%	
	小計		7	5.3%	
	京都府	亀岡市	1	0.8%	
		京都市	2	1.5%	
精華町		1	0.8%		
八幡市		1	0.8%		
木津川市		1	0.8%		
小計		6	4.5%		
滋賀県	草津市	1	0.8%		
	小計	1	0.8%		
計		85	64.4%		
東海	三重県	伊勢市	3	2.3%	
		津市	3	2.3%	
		伊賀市	2	1.5%	
		名張市	2	1.5%	
		紀北町	1	0.8%	
		熊野市	1	0.8%	
		四日市市	1	0.8%	
		松阪市	1	0.8%	
		多気町	1	0.8%	
		鈴鹿市	1	0.8%	
		小計	16	12.1%	
		愛知県	一宮市	1	0.8%
			清須市	1	0.8%
			東浦町	1	0.8%
	小計		3	2.3%	
	岐阜県	岐阜市	2	1.5%	
		八幡市	1	0.8%	
		小計	3	2.3%	
	計		22	16.7%	
	信越	長野県	安曇野市	1	0.8%
			岡谷市	1	0.8%
			松本市	2	1.5%
		計		4	3.0%
		関東	東京都	江戸川区	1
	西東京市			1	0.8%
	東久留米市			1	0.8%
	小計			3	2.3%
	千葉県		鴨川市	1	0.8%
			小計	1	0.8%
	計		4	3.0%	
中国	山口県	宇部市	1	0.8%	
		防府市	1	0.8%	
		小計	2	1.5%	
	島根県	雲南市	1	0.8%	
		小計	1	0.8%	
		計		3	2.3%
北陸	福井県	敦賀市	1	0.8%	
		福井市	1	0.8%	
	計		2	1.5%	
四国	香川県	坂出市	1	0.8%	
		計	1	0.8%	
不明			11	8.3%	
合計			132	100.0%	

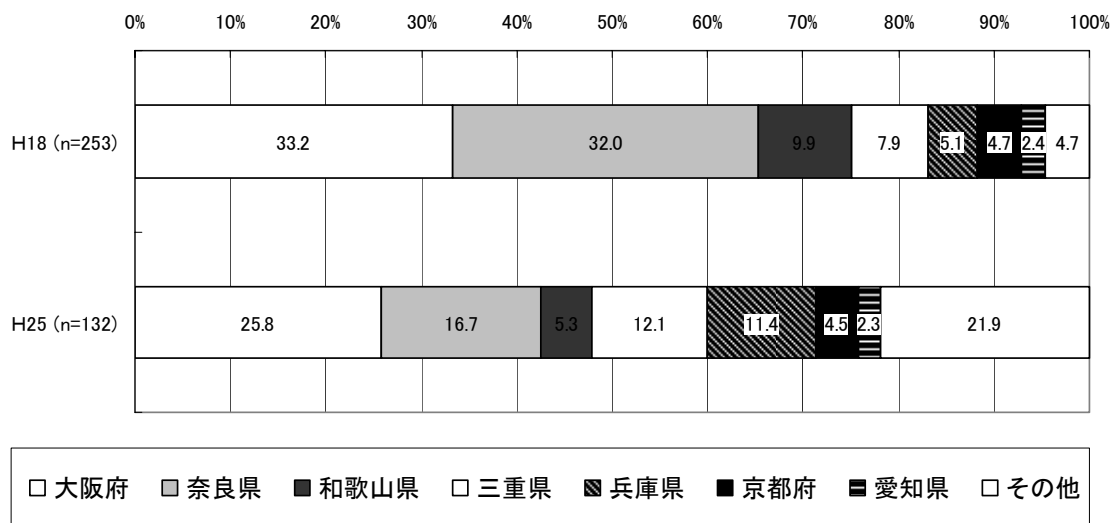


図 2-14 : 回答者の居住地 (平成 18 年度アンケート結果との比較)

イ) 年齢・性別

回答者の年齢について質問したところ、10代から70歳以上の全ての年齢層の方が大台ヶ原の周辺地域へ来訪されており、そのなかでも「50代」・「60代」(ともに20.5%)の方が最も多く、次いで「40代」(15.9%)、「30代」(14.4%)の方が多く訪れられていることが把握できた。

平成18年度アンケート結果と比較しても、50代から70代以上が半数近くを占める傾向は変わっていない。

表 2-19 : 回答者の年齢 (平成 18 年度アンケート結果との比較)

選択肢	H25 (n=132)		H18 (n=253)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比
10代	6	4.5%	3	1.2%
20代	9	6.8%	22	8.7%
30代	19	14.4%	41	16.2%
40代	21	15.9%	51	20.2%
50代	27	20.5%	78	30.8%
60代	27	20.5%	48	19.0%
70歳以上	9	6.8%	10	4.0%
不明	14	10.6%	0	0.0%
合計	132	100.0%	253	100.0%

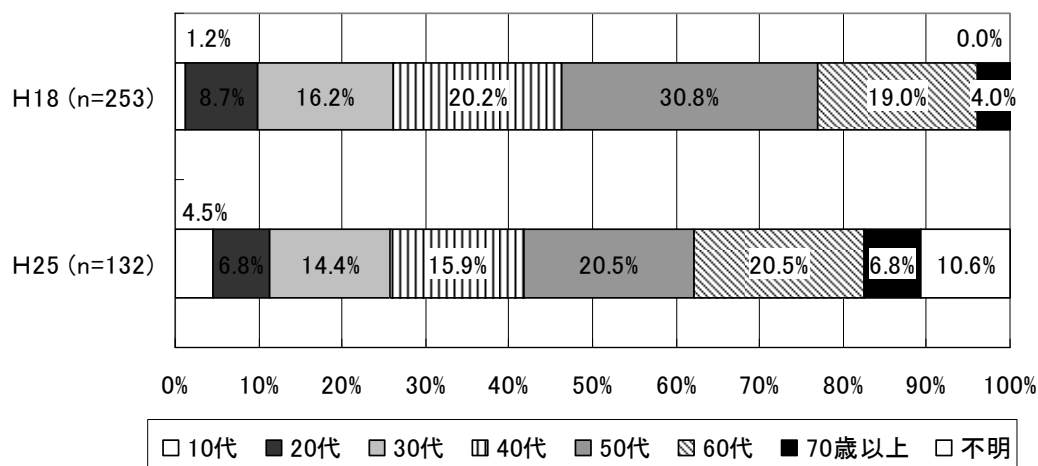


図 2-15 : 回答者の年齢 (平成 18 年度アンケート結果との比較)

回答者の性別について質問したところ、「男性」が 30.3%、「女性」が 18.9%であった。なお平成 18 年度アンケート時は「男性」が 64.4%であった。

表 2-20 : 回答者の性別 (平成 18 年度アンケート結果との比較)

選択肢	H25 (n=132)		H18 (n=253)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比
男性	40	30.3%	163	64.4%
女性	25	18.9%	82	32.4%
不明	67	50.8%	8	3.2%
合計	132	100.0%	253	100.0%

② 今回の来訪について

ア) 同行者の有無

大台ヶ原の周辺地域への来訪について、同行者の有無を質問したところ、「友人」(41.7%)と一緒に複数人で訪れている方が最も多く、次いで「家族」(32.6%)で訪れている方も多いことが把握できた。一方で、「ひとり」で大台ヶ原の周辺地域へ訪れている方は、全体の9.1%であった。

「その他」としては、上北山村主催のツアーへの参加や、会社や地域の登山クラブで大台ヶ原の周辺地域へ来訪していることが把握できた。

平成18年度アンケート結果と比較すると、同行者の構成比については「友人」の割合が増加しているが、「家族」「ひとり」の割合は減少している。同行者数については「2人以下」ないしは「3～5人」の構成比が大半を占める傾向は変わっていない。

表 2-21：今回の来訪における同行者の有無（平成18年度アンケート結果との比較）

選択肢	H25 (n=132)		H18 (n=249)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比
友人	55	41.7%	64	25.7%
家族	43	32.6%	137	55.0%
ひとり	12	9.1%	40	16.1%
旅行会社のツアー	0	0.0%	5	2.0%
その他	9	6.8%	3	1.2%
不明	13	9.8%	0	0.0%
合計	132	100.0%	249	100.0%

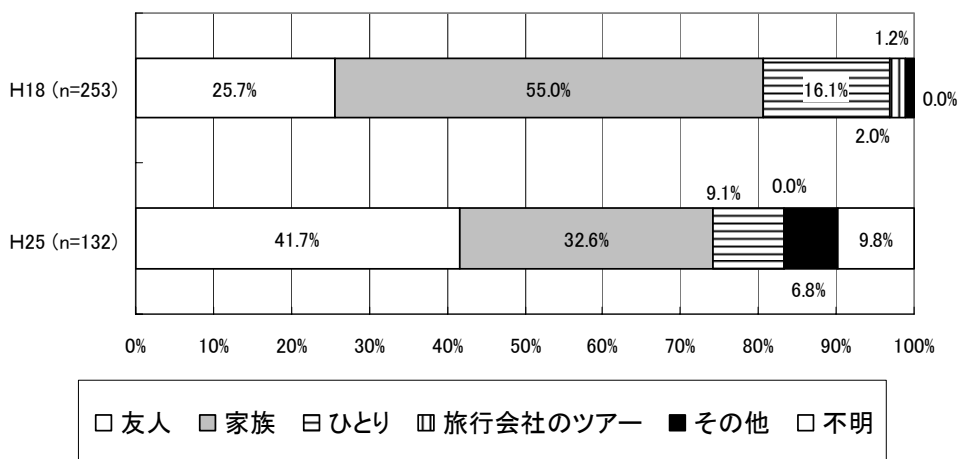


図 2-16：今回の来訪における同行者の有無（平成18年度アンケート結果との比較）

表 2-22 : 今回の来訪における同行者数の内訳（平成 18 年度アンケート結果との比較）

選択肢	H25 (n=132)		H18 (n=207)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比
2 人	33	30.8%	101	48.8%
3 人	27	25.2%	81	39.1%
4 人	16	15.0%		
5 人	7	6.5%		
7 人	3	2.8%	11	5.3%
8 人	4	3.7%		
9 人	1	0.9%		
12 人	1	0.9%	9	4.3%
13 人	11	10.3%		
20 人	1	0.9%	5	2.4%
不明	3	2.8%	0	0.0%
対象者数※	107	100.0%	207	100.0%

※ 1 : 対象者数は、「家族」、「友人」、「その他」の複数人で大台ヶ原を訪れたと回答した人数（107 人）

※ 2 : 平成 18 年度は選択肢を「2 人以下」「3～5 人」「6～10 人」「11～19 人」「20 人以上」と設定

イ) 交通手段

大台ヶ原の周辺地域への交通手段について質問したところ、「自家用車」（81.1%）を利用し訪れている方が大半を占めていることが把握できた。「その他」としては、バイク（回答者数 2）、レンタカー（同 2）、自転車（同 1）の交通手段が挙げられた。

平成 18 年度アンケート結果と比較しても「自家用車（72.6%）」が多い点は変わっていない。なお平成 18 年度の「その他」の内容として「二輪車」が 16.7%含まれており、ツーリングを楽しむ利用者も含まれることがわかる。

表 2-23 : 大台ヶ原周辺地域への交通手段（平成 18 年度アンケート結果との比較）

選択肢	H25 (n=132)		H18 (n=252)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比
自家用車	107	81.1%	183	72.6%
路線バス	4	3.0%	5	2.0%
観光バス	3	2.3%	9	3.6%
その他	5	3.8%	68	27.0%
不明	13	9.8%	0	0.0%
合計	132	100.0%	※252	100.0%

※複数回答のため、回答者数の合計と一致しない。

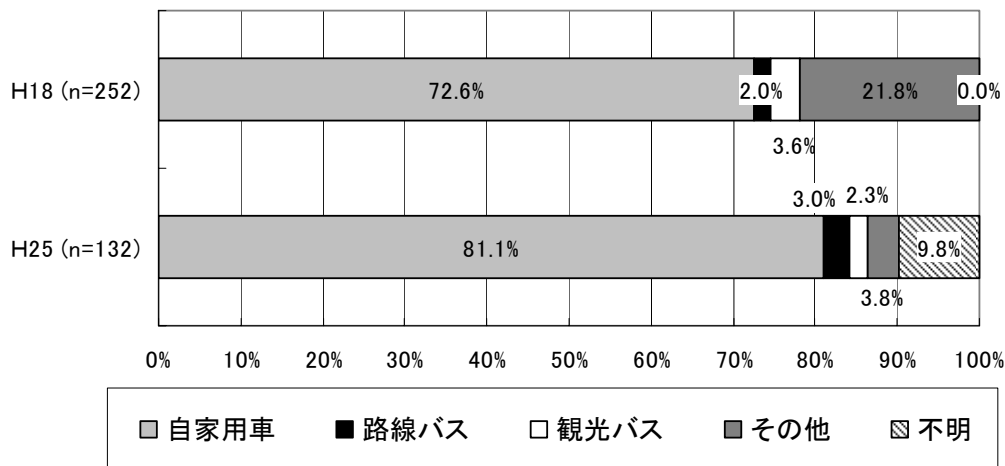


図 2-17 : 大台ヶ原周辺地域への交通手段 (平成 18 年度アンケート結果との比較)

ウ) 日帰り・宿泊

大台ヶ原の周辺地域への来訪が日帰りか宿泊かについて質問したところ、「日帰り」(59.8%)で訪れている方が半数を超えており、「宿泊」で訪れている方は全体の 30.3%であることが把握できた。平成 18 年度アンケート結果と比較しても、日帰り利用 (68.7%) が大半を占める傾向は変わっていない。

表 2-24 : 大台ヶ原周辺地域への来訪スタイル[日帰り、宿泊]
(平成 18 年度アンケート結果との比較)

選択肢	H25 (n=132)		H18 (n=246)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比
日帰り	79	59.8%	77	68.7%
宿泊	40	30.3%	169	31.3%
不明	13	9.8%	0	0.0%
合計	132	100.0%	246	100.0%

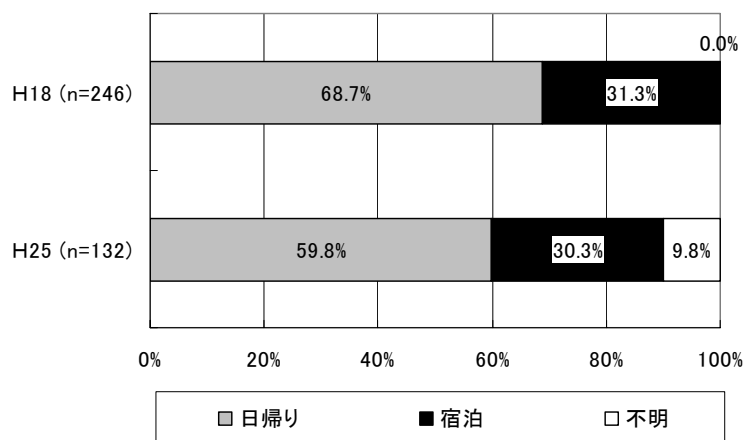


図 2-18 : 大台ヶ原周辺地域への来訪スタイル[日帰り、宿泊]
(平成 18 年度アンケート結果との比較)

また日帰り・宿泊の別について、大台ヶ原への立ち寄りの有無（予定を含む）別にみると、大台ヶ原に立ち寄る方は、約半分（45.6%）が「宿泊」なのに対し、大台ヶ原に立ち寄らない方は8割以上が「日帰り」の行程となっている。

表 2-25：大台ヶ原周辺地域への来訪スタイル[日帰り、宿泊]（大台ヶ原への立ち寄りの有無別）

選択肢	大台ヶ原に立ち寄り (n=68)		大台ヶ原に立ち寄らず (n=47)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比
日帰り	37	54.4%	40	85.1%
宿泊	31	45.6%	6	12.8%
不明	0	0.0%	1	2.1%
総計	68	100.0%	47	100.0%

宿泊数

大台ヶ原周辺地域へ宿泊で訪れた 40 人の方に、今回の来訪の宿泊日数について質問したところ、「1泊」（67.5%）で訪れている方が半数を超えており、次いで、「2泊」（17.5%）で訪れた方が多いということが把握できた。なかには、「8日」（5.0%）と1週間以上、大台ヶ原の周辺地域に滞在されている方もいることが確認できた。

平成 18 年度アンケート結果を見ても、「1泊」（76.3%）、「2泊」（19.7%）の割合が多い。

表 2-26：大台ヶ原周辺地域での宿泊日数（平成 18 年度アンケート結果との比較）

選択肢	H25 (n=40)		H18 (n=76)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比
1泊	27	67.5%	58	76.3%
2泊	7	17.5%	15	19.7%
3泊	2	5.0%	2	2.6%
4泊以上	2	5.0%	1	1.3%
不明	2	5.0%	0	0.0%
対象者数※	40	100.0%	76	100.0%

※対象者数は、「宿泊」で大台ヶ原周辺地域へ訪れたと回答した人数

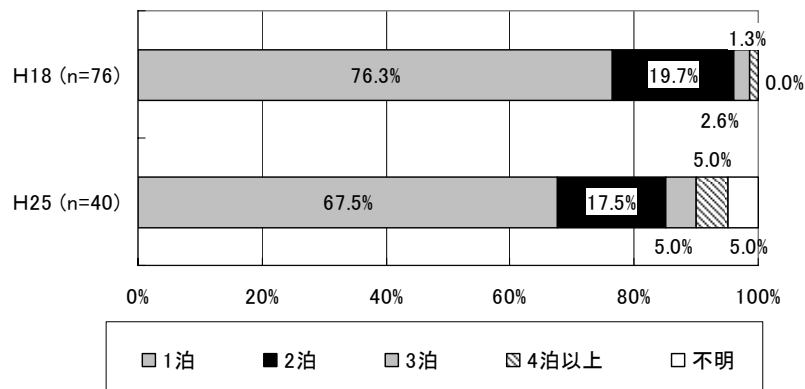


図 2-19：大台ヶ原周辺地域での宿泊日数（平成 18 年度アンケート結果との比較）

宿泊先

また具体の宿泊地について質問したところ、心・湯治館をはじめとした上北山村の宿泊施設、ホテル杉の湯など川上村の宿泊施設、桃の木山の家や栗谷小屋などの大台町の宿泊施設が利用されているほか、和佐又キャンプ場や白川渡オートキャンプ場、道の駅での車中泊などの宿泊施設、場所が挙げられた。

平成 18 年度アンケート結果をみると、大台ヶ原や上北山村、川上村の回答者数割合が大きいですが、三重県や勝浦温泉（和歌山県）の割合も大きくなっていることが特徴的である。

表 2-27：大台ヶ原周辺地域での宿泊先

府県	市町村名	H25 (n=32)	
		記載事項	回答者数
奈良県	上北山村	上北山村	10
		大台ヶ原	3
		心・湯治館	10
		和佐又キャンプ場	1
	川上村	ホテル杉の湯	3
		入之波温泉	1
		白川渡オートキャンプ場	2
	天川村	洞川温泉	4
		行者避難小屋	2
	吉野町	吉野町	1
三重県	大台町	桃の木山の家	2
		栗谷小屋	1
その他	不明	キャンプ場	1
		道の駅で車中泊	1

表 2-28：大台ヶ原周辺地域での宿泊先（平成 18 年度アンケート結果）

府県	H18 (n=62)	
	記載事項	回答者数
奈良県	上北山村	10
	大台ヶ原	6
	川上村	9
	奈良市	3
	その他奈良県	3
三重県	尾鷲	2
	熊野市	3
	その他三重県	3
和歌山県	勝浦温泉	15
	本宮温泉郷	3
	その他和歌山県	2
その他	京都市	2
	その他	1

エ) 来訪目的

今回の来訪目的について質問したところ、「登山」(29.5%)を目的に来訪されている方が最も多く、次いで「ハイキング」(23.5%)、「温泉」(12.1%)を目的に大台ヶ原の周辺地域を訪れている方が多いことが把握できた。

なお平成18年度アンケートでは、利用施設への来訪目的を質問しており、選択肢も異なるために単純比較はできないが、「ホテル杉の湯」では宿泊とともに観光や入浴を目的とする一時利用がみられること、「入之波温泉」では宿泊と並んで日帰り入浴の利用者が多いこと、など施設毎に特色ある利用傾向を示した。

表 2-29 : 大台ヶ原周辺地域への来訪目的

選択肢	回答者数	構成比
登山	39	29.5%
ハイキング	31	23.5%
温泉	16	12.1%
風景探勝	7	5.3%
写真撮影	3	2.3%
社寺見学	0	0.0%
釣り	0	0.0%
その他	9	6.8%
不明	27	20.5%
合計	132	100.0%

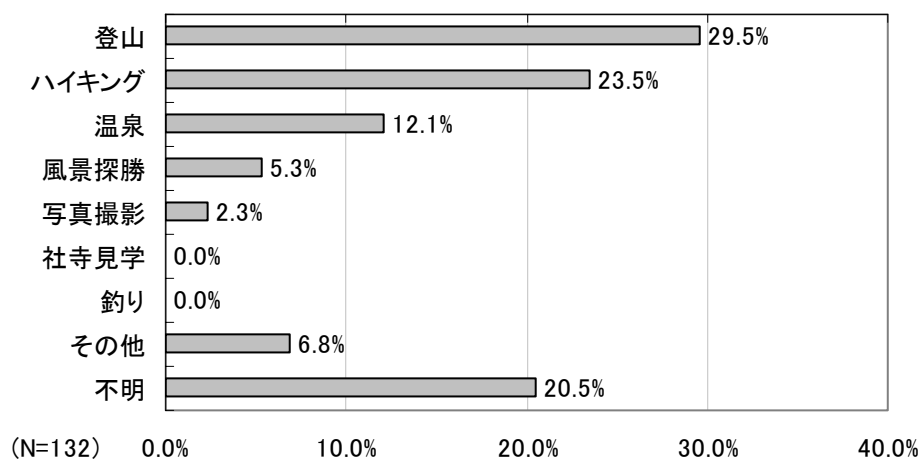


図 2-20 : 大台ヶ原周辺地域への来訪目的

表 2-30：調査地点（施設）への来訪目的（平成 18 年度アンケート結果）

選択肢	小処温泉	上北山村道の駅	ホテルかみきた (注)	川上村道の駅	ホテル杉の湯	入之波温泉	計	構成比
宿泊	2	0	6	0	3	6	17	6.7%
見学・観光	0	3	0	1	1	0	5	2.0%
飲食・休憩	1	71	2	99	0	0	173	68.4%
入浴	23	5	0	4	1	5	38	15.0%
買物	0	4	0	2	0	0	6	2.4%
地図等の 情報入手	1	2	0	0	0	0	3	1.2%
その他	0	6	0	1	0	1	8	3.2%
不明	1	1	1	0	0	0	3	1.2%
合計	28	92	9	107	5	12	253	100.0%

注：「ホテルかみきた」は、平成 23 年 4 月 1 日から休館（期間未定）しており、現在は営業を行っていない。

なお来訪目的を年齢層別にみると、「登山」や「ハイキング」は 20 代から 70 代以上まで幅広く選択されているが、「風景探勝」は「30 代 (42.9%)」の占める割合が、「温泉」は「60 代 (31.3%)」の割合が、それぞれ大きくなっているのが特徴的である。

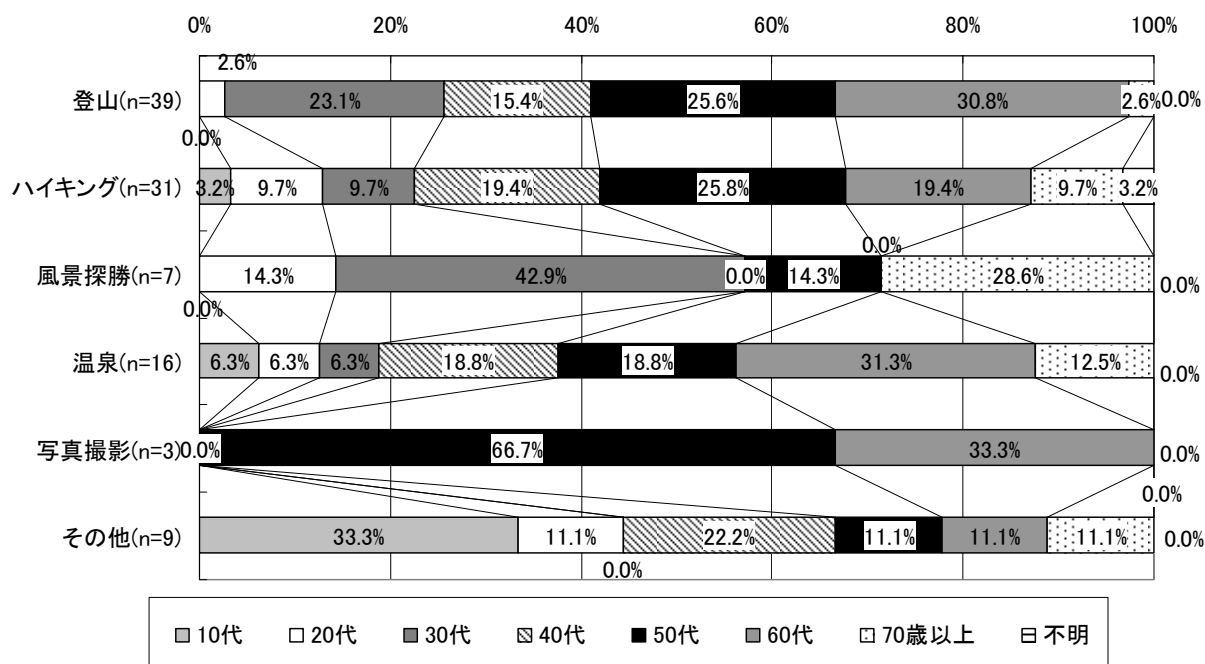


図 2-21：来訪目的（年齢層別）

※「社寺見学」「釣り」は回答者がゼロであったので除いた。

オ) 大台ヶ原周辺地域での立ち寄り場所

大台ヶ原周辺地域での立ち寄り場所について質問したところ、「大台ヶ原」(51.5%)に立寄られている方が半数以上を占めており、次いで「日帰り温泉「薬師湯」(上北山温泉)」(29.5%)、「小処温泉」(20.5%)に立寄られている方が多いことが把握できた。

「その他」の立ち寄り場所としては、大滝ダム、丹生川上神社上社などが挙げられた。

平成18年度アンケート結果では、道の駅「吉野路上北山村」「杉の湯川上」への立ち寄りが多く、大台ヶ原への立ち寄りは35.4%となっている。

表 2-31：大台ヶ原周辺地域の立ち寄り場所（平成18年度アンケート結果との比較）

選択肢	H25 (n=132)		H18 (n=246)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比
大台ヶ原	68	51.5%	87	35.4%
日帰り温泉「薬師湯」(上北山温泉)	39	29.5%	11	4.5%
小処温泉	27	20.5%	45	18.3%
道の駅「吉野路上北山村」	20	15.2%	106	43.1%
道の駅「杉の湯川上」	20	15.2%	138	56.1%
奥伊勢フォレストピア	13	9.8%	0	0.0%
入之波温泉	12	9.1%	35	14.2%
道の駅「奥伊勢おおだい」	10	7.6%	0	0.0%
森と水の源流館	9	6.8%	6	2.4%
大杉谷	8	6.1%	0	0.0%
和佐又山	7	5.3%	6	2.4%
山幸彦のもくもく館・てくてく館	6	4.5%	3	1.2%
その他	5	3.8%	12	4.9%
回答者数	132	※	246	※

※複数回答のため構成比の合計は100%にならない。

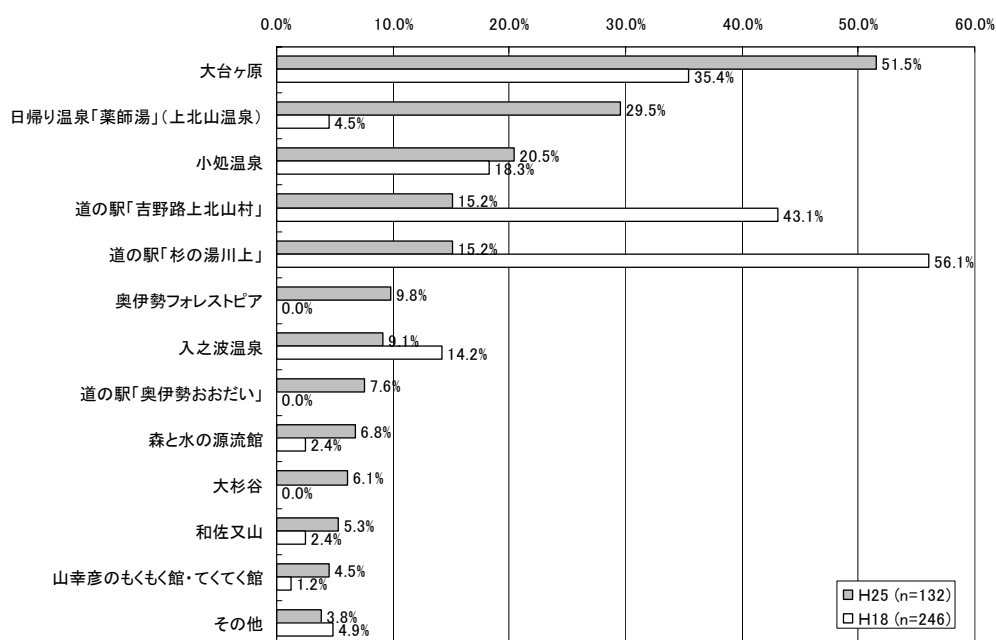


図 2-22：大台ヶ原周辺地域の立ち寄り場所（平成18年度アンケート結果との比較）

また大台ヶ原周辺地域における立ち寄り場所について、大台ヶ原への立ち寄りの有無（予定を含む）別にみると、「大台ヶ原」へ立ち寄った方の多くは「日帰り温泉「薬師湯」（上北山温泉）（42.6%）」や「小処温泉（26.5%）」「道の駅「吉野路上北山村」（22.1%）」等、上北山村内施設に立ち寄っている。一方、「大台ヶ原」に立ち寄らない方は、大台町の「奥伊勢フォレストピア（23.4%）」や川上村の「道の駅「杉の湯川上（21.3%）」」等への立ち寄る割合が多くなっている。

表 2-32：大台ヶ原周辺地域の立ち寄り場所（大台ヶ原への立ち寄りの有無別）

選択肢	大台ヶ原に立ち寄り (n=68)		大台ヶ原に立ち寄らず (n=47)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比
和佐又山	3	4.4%	4	8.5%
小処温泉	18	26.5%	9	19.1%
道の駅「吉野路上北山村」	15	22.1%	5	10.6%
日帰り温泉「薬師湯」(上北山温泉)	29	42.6%	9	19.1%
入之波温泉	8	11.8%	3	6.4%
道の駅「杉の湯川上」	10	14.7%	10	21.3%
森と水の源流館	2	2.9%	7	14.9%
山幸彦のもくもく館・てくてく館	3	4.4%	3	6.4%
大杉谷	4	5.9%	4	8.5%
奥伊勢フォレストピア	2	2.9%	11	23.4%
道の駅「奥伊勢おおだい」	4	5.9%	6	12.8%
その他	1	1.5%	4	8.5%

※各場所について、立ち寄りには予定を含む

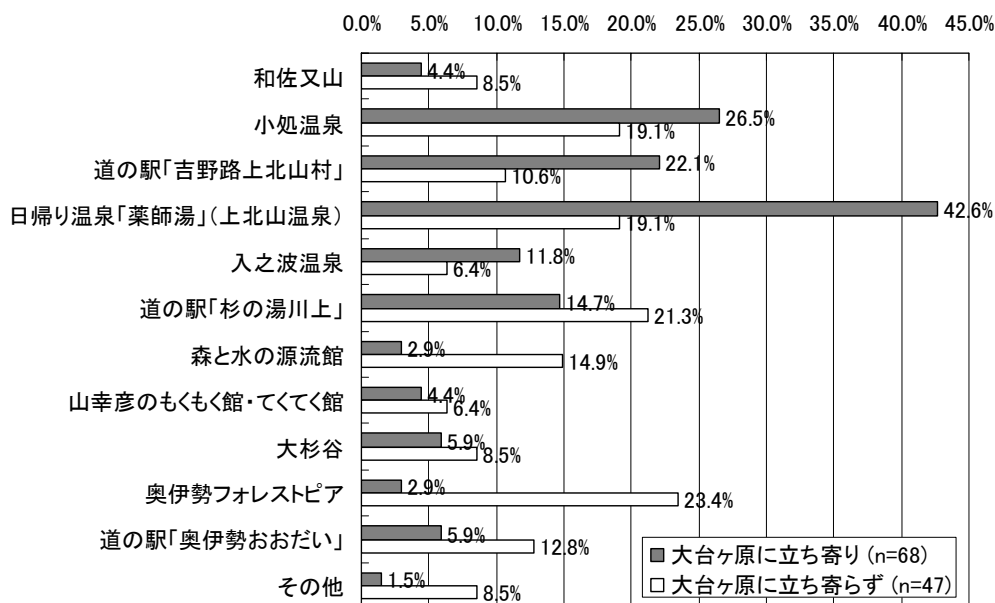


図 2-23：大台ヶ原周辺地域の立ち寄り場所（大台ヶ原への立ち寄りの有無別）

カ) 大台ヶ原周辺地域以外の立ち寄り場所

大台ヶ原周辺地域以外での立ち寄り場所について質問したところ、「大峰山」(11.4%)に立寄られている方が半数以上を占めており、次いで「吉野山」(7.6%)に立寄られている方が多いことが把握できた。「その他」の立ち寄り場所としては、稲村ヶ原、宇陀市などが挙げられた。

平成18年度アンケート結果では、「下北山村(19.1%)」、「那智勝浦(16.2%)」、「熊野(14.7%)」、「吉野・大淀(12.5%)」等の割合が高くなっていた。

表 2-33：大台ヶ原周辺地域以外の立ち寄り場所

選択肢	回答者数	構成比※
大峰山	15	11.4%
吉野山	10	7.6%
熊野の鬼ヶ城、七里御浜	6	4.5%
串本の橋杭岩、潮岬、串本海域公園	6	4.5%
熊野本宮大社周辺	5	3.8%
熊野那智大社、那智の滝	5	3.8%
瀨峡・瀨八丁	3	2.3%
那智勝浦、宇久井半島	3	2.3%
九里峡	2	1.5%
尾鷲の九木崎、三木崎	1	0.8%
その他	4	3.0%
回答者数	132	

※複数回答のため構成比の合計は100%にならない。

表 2-34：大台ヶ原周辺地域以外の立ち寄り場所（平成18年度アンケート結果）

選択肢	回答者数	構成比※
下北山村	26	19.1%
那智勝浦	22	16.2%
熊野	20	14.7%
吉野・大淀	17	12.5%
洞川・天川	11	8.1%
明日香・桜井	13	9.6%
尾鷲	8	5.9%
瀨・七色	6	4.4%
本宮	5	3.7%
十津川	4	2.9%
高野山	4	2.9%
大峯	3	2.2%
曾爾	2	1.5%
その他	21	15.4%
回答者数	136	

※複数回答のため構成比の合計は100%にならない。

また大台ヶ原周辺地域以外における立ち寄り場所について、大台ヶ原への立ち寄りの有無（予定を含む）別にみると、「大台ヶ原」へ立ち寄った方の多くは「大峰山(13.2%)」や「吉野山(10.3%)」への立ち寄り割合が大きかった。なお「大台ヶ原」に立ち寄らない方についても「大峰山(12.8%)」への立ち寄る割合が最大となっている。

表 2-35：大台ヶ原周辺地域以外の立ち寄り場所（大台ヶ原への立ち寄りの有無別）

選択肢	大台ヶ原に立ち寄り (n=68)		大台ヶ原に立ち寄らず (n=47)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比
吉野山	7	10.3%	3	6.4%
大峰山	9	13.2%	6	12.8%
瀨峡・瀨八丁	2	2.9%	1	2.1%
九里峡	0	0.0%	2	4.3%
熊野本宮大社周辺	3	4.4%	2	4.3%
熊野那智大社、那智の滝	4	5.9%	1	2.1%
尾鷲の九木崎、三木崎	1	1.5%	0	0.0%
熊野の鬼ヶ城、七里御浜	4	5.9%	2	4.3%
那智勝浦、宇久井半島	2	2.9%	1	2.1%
串本の橋杭岩、潮岬、串本海域公園	4	5.9%	2	4.3%
その他	4	5.9%	0	0.0%

※各場所について、立ち寄りには予定を含む

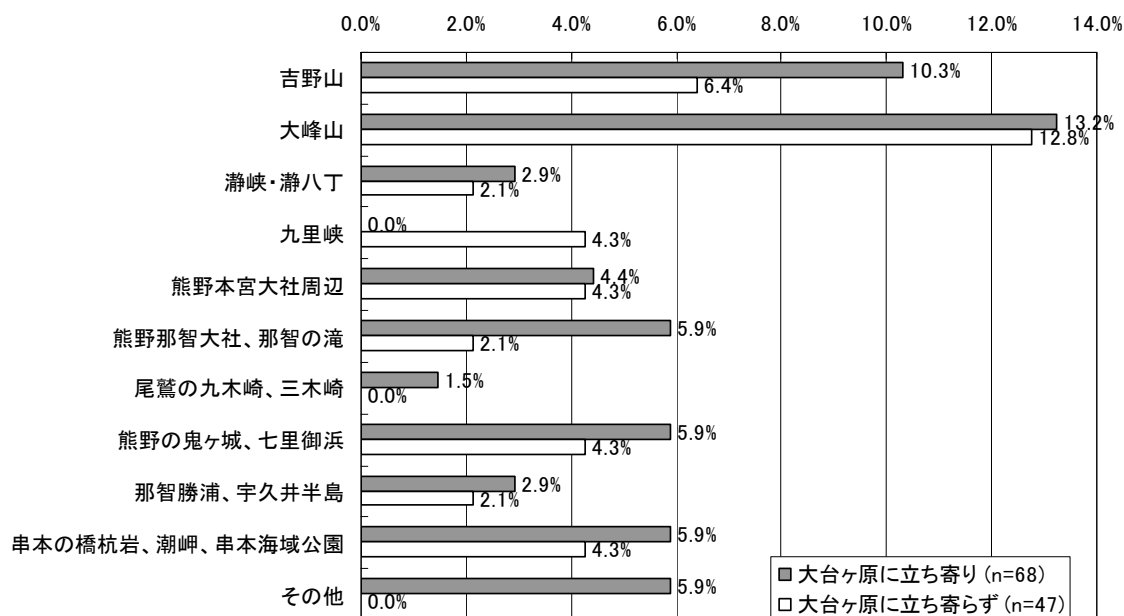


図 2-24：大台ヶ原周辺地域以外の立ち寄り場所（大台ヶ原への立ち寄りの有無別）

③ 吉野熊野国立公園について

ア) 吉野熊野国立公園の認知度

吉野熊野国立公園を知っているかどうか質問したところ、「知っている」と答えた方は 78.0% で、吉野熊野国立公園の認知度は 70% を超えていることが把握できた。一方、「知らない」と答えた方は全体の 18.2% であった。

表 2-36 : 吉野熊野国立公園の認知度

選択肢	回答者数	構成比
知っている	103	78.0%
知らない	24	18.2%
不明	5	3.8%
合計	132	100.0%

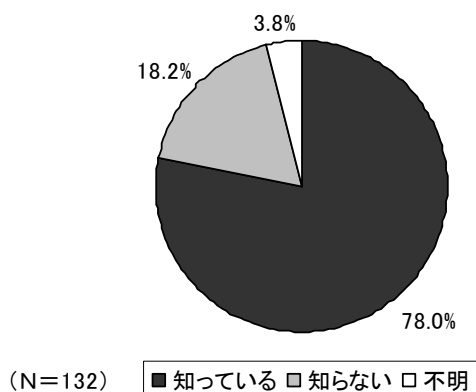


図 2-25 : 吉野熊野国立公園の認知度

イ) 吉野熊野国立公園西大台利用調整地区の認知度

吉野熊野国立公園西大台利用調整地区を知っているかどうか質問したところ、「知っている」と答えた方は 49.2% で、「知らない」と答えた方は 43.2% であった。

表 2-37 : 吉野熊野国立公園西大台利用調整地区の認知度

選択肢	回答者数	構成比
知っている	65	49.2%
知らない	57	43.2%
不明	10	7.6%
合計	132	100.0%

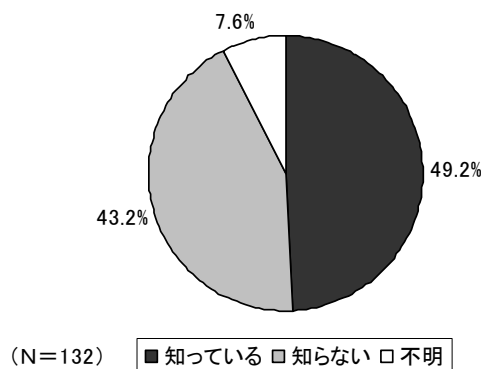


図 2-26 : 吉野熊野国立公園西大台利用調整地区の認知度

④ 大台ヶ原について

ア) 認知度

大台ヶ原の中の区域や施設の認知度について質問したところ、「大台ヶ原ビジターセンター」(71.2%)の認知度が最も高く、次いで、「大蛇ヶ原」(69.7%)、「日出ヶ岳」(62.9%)の認知度が高いことが把握できた。

表 2-38 : 大台ヶ原の区域や施設の認知度

選択肢	回答者数	構成比※
大台ヶ原ビジターセンター	94	71.2%
大蛇ヶ原	92	69.7%
日出ヶ岳	83	62.9%
正木ヶ原	64	48.5%
正木峠	61	46.2%
シオカラ谷	61	46.2%
西大台	57	43.2%
大杉谷	53	40.2%
大台教会	51	38.6%
その他	3	2.3%
回答者数	132	

※複数回答のため構成比の合計は100%にならない。

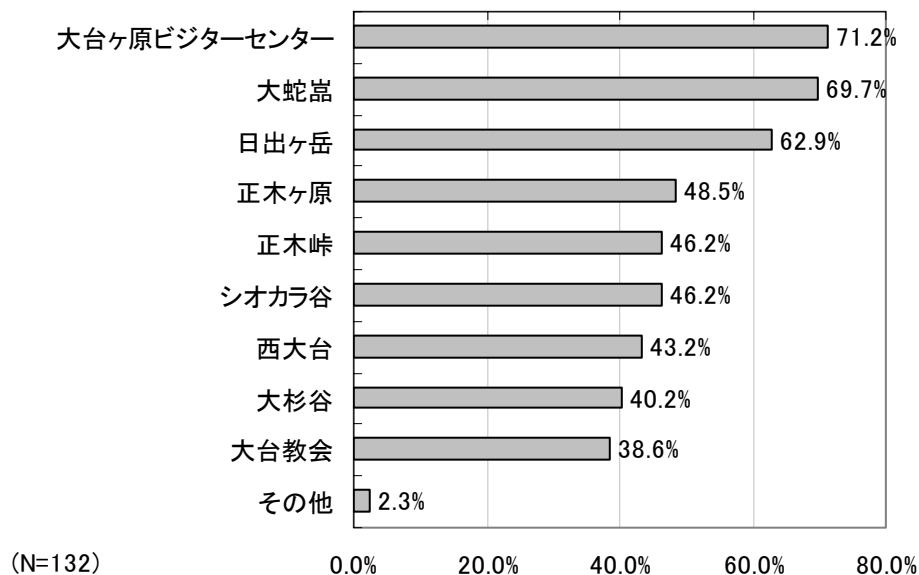


図 2-27 : 大台ヶ原の区域や施設の認知度

イ) 来訪経験

大台ヶ原の中の区域や施設への来訪経験について質問したところ、「大台ヶ原ビジターセンター」(63.6%)への来訪経験が最も多く、次いで、「大蛇ヶ原」(58.3%)、「日出ヶ岳」(56.1%)の来訪経験が多いことが把握できた。

表 2-39：大台ヶ原の区域や施設への来訪経験

選択肢	回答者数	構成比※
大台ヶ原ビジターセンター	84	63.6%
大蛇ヶ原	77	58.3%
日出ヶ岳	74	56.1%
正木ヶ原	64	48.5%
正木峠	58	43.9%
シオカラ谷	58	43.9%
西大台	39	29.5%
大杉谷	36	27.3%
大台教会	33	25.0%
その他	3	2.3%
回答者数	132	

※複数回答のため構成比の合計は100%にならない。

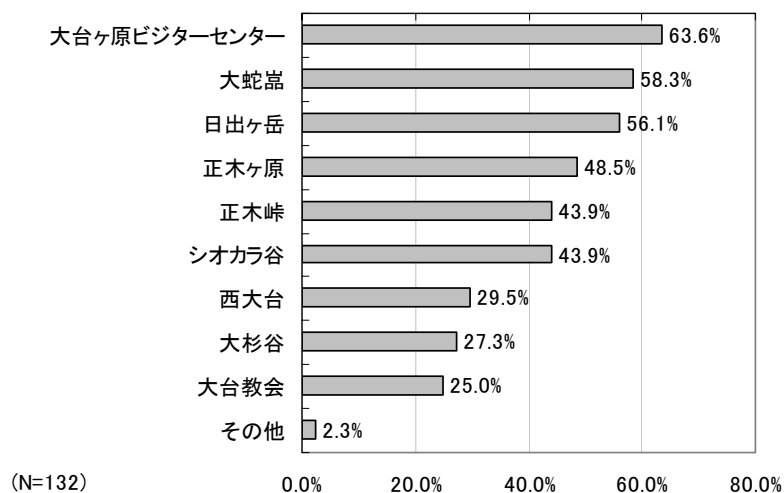


図 2-28：大台ヶ原の区域や施設への来訪経験

ウ) 満足度

大台ヶ原の満足度について質問したところ、「満足した」（「たいへん満足した」（42.9%）＋「満足した」（40.0%））と回答した方は82.9%であり、一方、「不満」を感じた方は全体の3.9%（「やや不満」（2.9%）＋「不満」（1.0%））であることが把握できた。

表 2-40：大台ヶ原の満足度

選択肢	回答者数※	構成比
たいへん満足した	45	42.9%
満足した	42	40.0%
普通	14	13.3%
やや不満	3	2.9%
不満	1	1.0%
合計	105	100.0%

※回答者数は当設問に解答した人数（105人）である。

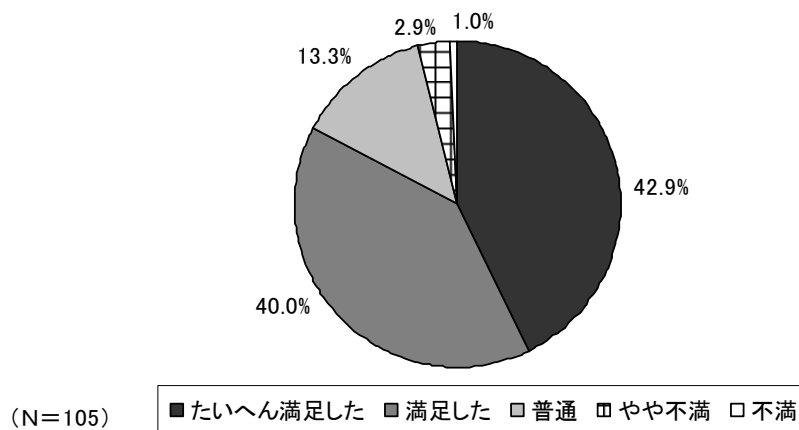


図 2-29：大台ヶ原の満足度

エ) 各施設に対する満足度

■ドライブウェイ

大台ヶ原のドライブウェイの満足度について質問したところ、「満足した」(「たいへん満足した」(16.0%) + 「満足した」(39.6%))と回答した方は55.6%であり、一方、「不満」を感じた方は全体の17.0% (「やや不満」(14.2%) + 「不満」(2.8%))であることが把握できた。

表 2-41 : 大台ヶ原のドライブウェイの満足度

選択肢	回答者数※	構成比
たいへん満足した	17	16.0%
満足した	42	39.6%
普通	29	27.4%
やや不満	15	14.2%
不満	3	2.8%
合計	106	100.0%

※回答者数は当設問に解答した人数(106人)である。

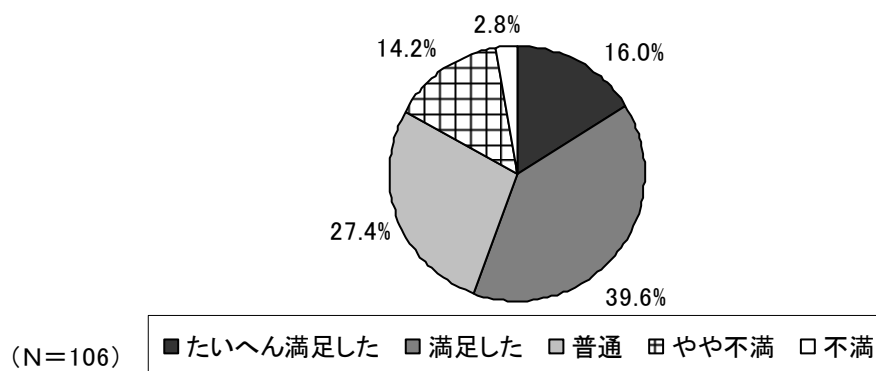


図 2-30 : 大台ヶ原のドライブウェイの満足度

■歩道

大台ヶ原の歩道の満足度について質問したところ、「満足した」（「たいへん満足した」（22.5%）+「満足した」（45.1%））と回答した方は67.6%であり、一方、「不満」を感じた方は全体の6.9%（「やや不満」（4.9%）+「不満」（2.0%））であることが把握できた。

表 2-42：大台ヶ原の歩道の満足度

選択肢	回答者数※	構成比
たいへん満足した	23	22.5%
満足した	46	45.1%
普通	26	25.5%
やや不満	5	4.9%
不満	2	2.0%
合計	102	100.0%

※回答者数は当設問に解答した人数（102人）である。

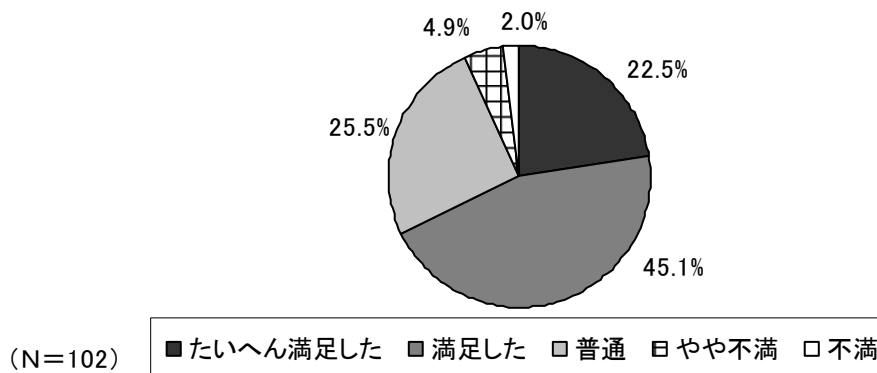


図 2-31：大台ヶ原の歩道の満足度

■トイレ

大台ヶ原のトイレの満足度について質問したところ、「満足した」(「たいへん満足した」(22.4%) + 「満足した」(33.6%))と回答した方は56.0%であり、一方、「不満」を感じた方は全体の14.0% (「やや不満」(10.3%) + 「不満」(3.7%))であることが把握できた。

表 2-43 : 大台ヶ原のトイレの満足度

選択肢	回答者数※	構成比
たいへん満足した	24	22.4%
満足した	36	33.6%
普通	32	29.9%
やや不満	11	10.3%
不満	4	3.7%
合計	107	100.0%

※回答者数は当設問に解答した人数(107人)である。

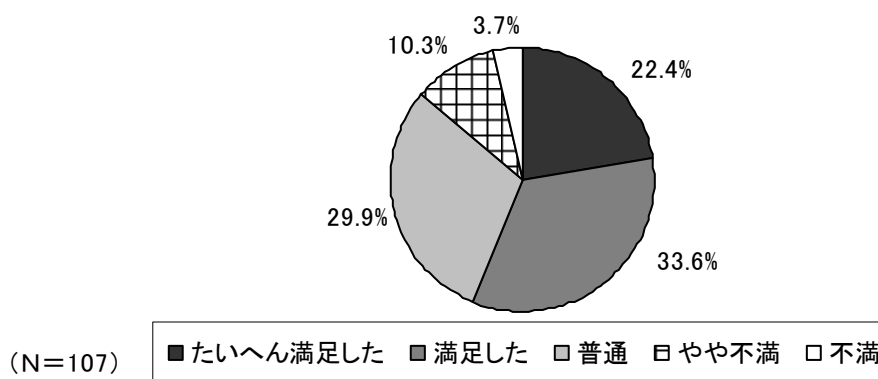


図 2-32 : 大台ヶ原のトイレの満足度

■ビジターセンター

大台ヶ原のビジターセンターの満足度について質問したところ、「満足した」（「たいへん満足した」（20.8%）+「満足した」（33.7%））と回答した方は 54.5%であり、一方、「不満」を感じた方は全体の 8.0%（「やや不満」（4.0%）+「不満」（4.0%））であることが把握できた。

表 2-44：大台ヶ原ビジターセンターの満足度

選択肢	回答者数※	構成比
たいへん満足した	21	20.8%
満足した	34	33.7%
普通	38	37.6%
やや不満	4	4.0%
不満	4	4.0%
合計	101	100.0%

※回答者数は当設問に解答した人数（107人）である。

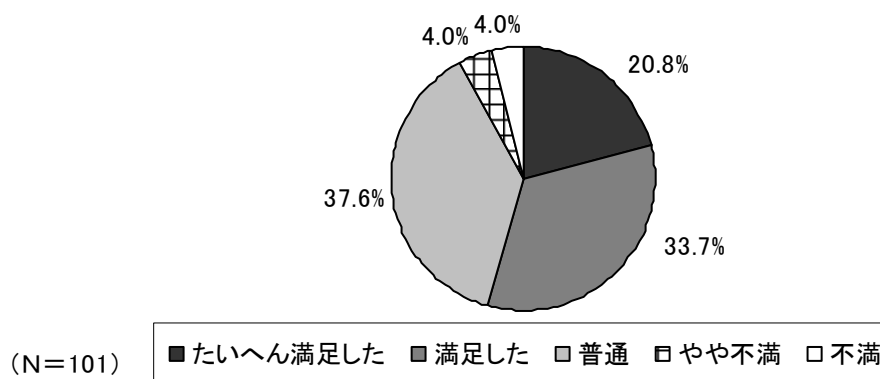


図 2-33：大台ヶ原ビジターセンターの満足度

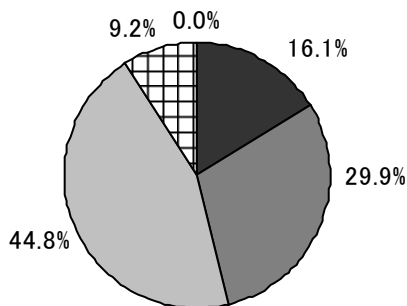
■宿泊施設・飲食施設

大台ヶ原の飲食施設・宿泊施設等の満足度について質問したところ、「満足した」（「たいへん満足した」（16.1%）＋「満足した」（29.9%））と回答した方は 46.0%であり、一方、「不満」を感じた方は全体の 9.2%（「やや不満」（9.2%）＋「不満」（0.0%））であることが把握できた。

表 2-45：大台ヶ原の宿泊施設・飲食施設の満足度

選択肢	回答者数※	構成比
たいへん満足した	14	16.1%
満足した	26	29.9%
普通	39	44.8%
やや不満	8	9.2%
不満	0	0.0%
合計	87	100.0%

※回答者数は当設問に解答した人数（87人）である。



(N=87)

■たいへん満足した ■満足した □普通 □やや不満 □不満

図 2-34：大台ヶ原の宿泊施設・飲食施設の満足度

⑤ 大台ヶ原の施設に対する意見や要望

大台ヶ原の施設に対して、以下のような意見や要望が寄せられた。なお文末の括弧内は、回答者の居住地、年齢層、性別を示す。

■トイレに関する意見・要望（8件）

- ・有料でいいので登山道沿いにトイレを設置してほしい。(不明, 不明, 不明)
- ・駐車場にしかトイレがないのは不便。登山道沿いに1箇所でもいいからトイレがあるといいのにといつも思う。(大阪府河内長野市, 40代, 不明)
- ・トイレの便器はウォッシュレットにしてほしい。トイレが清潔で良かった。(兵庫県三木市, 50代, 女性)
- ・館内やトイレがきれいでもとても驚いた。(大阪府堺市, 10代, 女性)
- ・トイレは洋式が増えると有り難い。(三重県四日市市, 30代, 女性)
- ・宿泊施設のトイレが和式で不便だった。(奈良県奈良市, 40代, 男性)
- ・宿泊施設のトイレ、風呂、サービスを充実してほしい。(大阪府大阪市, 60代, 不明)
- ・宿泊人数が多いわりに、宿泊施設のトイレが少なかった。(大阪府藤井寺市, 40代, 不明)

■その他施設に関する意見・要望（5件）

- ・小処温泉を利用したが、きれいで良かった。(兵庫県伊丹市, 50代, 不明)
- ・温泉には綿棒を置いてほしい。(兵庫県三木市, 50代, 女性)
- ・宿泊施設がたくさんあるといい。(岐阜県岐阜市, 30代, 女性)
- ・宿泊するところがない。(長野県安曇野市, 50代, 不明)
- ・30年程前と最近2度ほどダムへ訪れた。もう少し明るくきれいだともっと行きたくなる場所だと思う。(不明, 不明, 不明)

■主要アクセスルートに係る意見・要望（8件）

- ・ドライブウェイは、不慣れな運転手では危ない。これから高齢者が増えるので、事故が増えることが危惧される。また排気ガス、外来種の侵入、ペットの連れ込みなど、環境負荷がかかり過ぎている。一般車両の通行は制限し、シャトルバスを運行すべき。(奈良県大淀町, 40代, 不明)
- ・ドライブウェイの道が狭い。混雑すると頂上の駐車場へ入れないときもある。(三重県伊勢市, 60代, 不明)
- ・道のすれ違いが危ない。バスと自動車の接触事故を見かけた。霧が発生し易いので、ビジターセンター周辺など、灯りを付けて分かりやすくしてほしい。(大阪府大阪市, 40代, 男性)
- ・ドライブウェイに標高の表示があれば良いと思う。(兵庫県神戸市, 50代, 男性)
- ・国道169号はそこそこ大型車が通るのに、トンネルに自転車に適した歩道がない。(山口県防府市, 70歳以上, 男性)
- ・道路が狭い。(大阪府池田市, 40代, 男性)
- ・大杉谷登山口から登りたいがマイカー以外の方法がない。予約制の4名からしか方法がない。

(三重県鈴鹿市, 60代, 不明)

- ・マイカー以外の手法で大杉谷登山口までの交通の便を検討してほしい。(奈良県, 60代, 不明)

■西大台利用調整地区に関する意見・要望（6件）

- ・西大台の利用調整地区はいい制度だと思う。(東京都東久留米市, 30代, 女性)
- ・入山許可書の取得方法が分かりづらかった。(岐阜県岐阜市, 30代, 不明)
- ・西大台の入山許可を当日受付可能にしてほしい。平日やオフシーズンだけでもいいので、ビジターセンターの工夫で対応できるのではないか。(大阪府堺市, 50代, 不明)
- ・西大台を自由に通してほしい。(奈良県五條市, 40代, 不明)
- ・西大台に雨宿りができる場所がない。(大阪府, 50代, 女性)
- ・松浦武四郎碑を訪れたかった。(三重県名張市, 70歳以上, 女性)

■自然環境保全に係る意見・要望（3件）

- ・数十年以来歩いているが余りに自然が失われている気がする。便利になるのは良いが。(和歌山県, 60代, 女性)
- ・正木峠の植生をなんとか再生してほしい。(奈良県奈良市, 60代, 不明)
- ・ドライブウェイの崩土防止の緑化工事で、ハルザキヤマガラスが侵入した問題があるのに、まだ、同様の工事が周辺を含め実施されていることは問題である。(奈良県大淀町, 40代, 不明)

■全般的な感想（16件）

- ・良かった。(東京都江戸川区, 50代, 不明)
- ・すごく良かったと思う。(大阪府堺市, 30代, 不明)
- ・満足している。(奈良県奈良市, 40代, 女性)
- ・こんな素敵なお場所だとは思わなかった。(山口県宇部市, 20代, 不明)
- ・楽しくハイキングができ、家族といい思い出ができた。(大阪府和泉市, 10代, 不明)
- ・きれいな風景だった。(不明, 不明, 不明)
- ・満足した。もう一度いきたい。(不明, 不明, 不明)
- ・1泊2日の団体旅行だったが、次はプライベートで来たいと思った。(兵庫県尼崎市, 20代, 不明)
- ・はじめて大台ヶ原を訪れたが素晴らしかった。(東京都西東京市, 30代, 女性)
- ・昔と比べたらよくなったと感じる。(大阪府吹田市, 70歳以上, 不明)
- ・素晴らしい景観なのでもっと宣伝すべきである。(兵庫県西宮市, 30代, 不明)
- ・いつも手入れが行届いていて気持ちがいい。また来たい。(大阪府河内長野市, 50代, 女性)
- ・このままで十分。手入れ、維持管理してくれている方に感謝したい。(京都府精華町, 50代, 不明)
- ・無料で入山できることを感謝している。(奈良県大和高田市, 不明, 不明)
- ・田舎の雰囲気アピールしてほしい。(大阪府豊中市, 60代, 男性)
- ・マナーが悪い人、装備が不十分な人も多いため、レンジャーを増やすべき。シーズン中は、医

者を常駐させるべき。(奈良県大淀町, 40代, 不明)

■その他（3件）

- ・大台ヶ原山椒大夫君のグッズなどを展開してほしい。(東京都東久留米市, 30代, 女性)
- ・大台ヶ原山椒大夫君が可愛かったなので、もっと大々的にグッズ（手ぬぐい、ピンパッジ等）などがあったら良いと思う。(東京都西東京市, 30代, 女性)
- ・吉野川が濁流であることが残念だった。(山口県防府市, 70歳以上, 男性)

3) アンケート結果のまとめ

大台ヶ原周辺地域における利用実態に関するアンケート調査結果から、以下のことが明らかになった。

① 回答者の属性と今回の来訪について

- ・居住地は、「大阪府」(25.8%)、「奈良県」(16.7%)、「三重県」(12.1%)、「兵庫県」(11.4%)の順に多く、地方別では「近畿地方」(64.4%)から来訪者の大半が訪れている。
- ・年齢層は「50代」・「60代」(ともに20.5%)の方が最も多い。
- ・同行者は「友人」(41.7%)、「家族」(32.6%)が多い。
- ・大台ヶ原の周辺地域への交通手段は「自家用車」(81.1%)が最も多い。
- ・宿泊の有無については「日帰り」が59.8%となっている。
- ・宿泊の有無を大台ヶ原への立ち寄りの別にみると、大台ヶ原に立ち寄る方の45.6%は「宿泊」だが、立ち寄らない方は85.1%が「日帰り」だった。
- ・宿泊客(40人)の今回の宿泊日数は、「1泊」(67.5%)、「2泊」(17.5%)の割合が大きいが、中には「8日」(5.0%)と長く滞在する方も見られた。
- ・今回の来訪目的は「登山」(29.5%)、「ハイキング」(23.5%)、「温泉」(12.1%)である。
- ・大台ヶ原周辺地域での立ち寄り「大台ヶ原」(51.5%)「日帰り温泉「薬師湯」(上北山温泉)」(29.5%)、「小処温泉」(20.5%)の順に多い。
- ・大台ヶ原周辺地域以外での立ち寄りは「大峰山」(11.4%)、「吉野山」(7.6%)の順に多い。

② 認知度・来訪経験

- ・吉野熊野国立公園の認知度は「知っている」(78.0%)が高いが、西大台利用調整地区を「知っている」(49.2%)は半数程度。
- ・大台ヶ原内の施設の認知度は「大台ヶ原ビジターセンター」(71.2%)、「大蛇岨」(69.7%)、「日出ヶ岳」(62.9%)が高く、来訪経験も「大台ヶ原ビジターセンター」(63.6%)「大蛇岨」(58.3%)、「日出ヶ岳」(56.1%)が高い。

③ 満足度

- ・大台ヶ原の満足度は「満足した」(82.9%)、「不満」(3.9%)であった。
- ・施設毎の満足度は、ドライブウェイ(満足した:55.6%、不満:17.0%)、歩道(満足した:67.6%、不満:6.9%)、トイレ(満足した:56.0%、不満:14.0%)、大台ヶ原ビジターセンター(満足した:54.5%、不満:8.0%)、飲食施設・宿泊施設等(満足した:46.0%、不満:9.2%)であり、ドライブウェイ及びトイレについて「不満」の割合が1割を超えている。

④ 自由記述

- ・自由記述には、今回の来訪に関して満足している意見が多く寄せられた。
- ・一方で、トイレの増設、洋式トイレの導入等、トイレの改善を求める意見や、大台ヶ原ドライブウェイの混雑、大杉谷登山口へのアクセスの不便さに関する意見が見られた。

吉野熊野国立公園 大台ヶ原の利用に関するアンケート調査

環境省近畿地方環境事務所

この調査は、大台ヶ原の周辺地域（上北山村・川上村・大台町）に来訪された方を対象として、大台ヶ原周辺地域の利用の実態を把握することを目的として実施しています。調査結果は、大台ヶ原のより良い利用の推進に役立てたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

問1 ご自身のことについて

1-1 あなたの住まいはどこですか。都道府県と市区町村を記入してください。

() 都・道・府・県 () 市・区・町・村

1-2 あなたの年齢と性別をそれぞれ選択肢から選んでください。

年齢 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70歳以上

性別 ①男性 ②女性

問2 今回の来訪について

2-1. どなたが大台ヶ原周辺地域（上北山村・川上村・大台町）に来訪されましたか。以下から1つ選んで、() 内にご自身を含めた人数を記入してください。

①ひとり ②家族 () 人 ③友人 () 人

④旅行会社のツアー () 人 ⑤その他 (団体名:) 人数: () 人

2-2. 今回の来訪で、大台ヶ原周辺地域（上北山村・川上村・大台町）に来るまでに、利用した交通手段は何ですか。以下から1つ選んでください。

①自家用車 ②観光バス ③路線バス

④その他 (具体的に:)

2-3. 今回の来訪は日帰りですか、泊りがけですか。泊りがけの場合は、宿泊数と宿泊地の地名を () 内にお書きください。

①日帰り

②泊りがけ 宿泊数 () 泊 宿泊地 (地名:)

2-4. 今回の来訪の主な目的は何ですか。以下から1つ選んでください。

①登山 ②ハイキング ③風景探勝 ④社寺見学 ⑤温泉 ⑥写真撮影

⑦釣り ⑧その他 ()

2-5. 今回の来訪で、大台ヶ原周辺地域（上北山村・川上村・大台町）の中で立ち寄られた（またはこれから立ち寄る予定の）場所はどこですか。あてはまるものを全て選んで下さい。（複数回答可）

①大台ヶ原 ②和佐又山 ③小処温泉 ④道の駅「吉野路上北山村」

⑤日帰り温泉「葉師湯」（上北山温泉） ⑥入之波温泉 ⑦道の駅「杉の湯川上」

⑧森と水の源流館 ⑨山幸彦のもくもく館・てくてく館

⑩大杉谷 ⑪奥伊勢フォレストピア ⑫道の駅「奥伊勢おおだい」

⑬その他 ()

2-6. 今回のご旅行で、大台ヶ原周辺地域（上北山村・川上村・大台町）以外で、立ち寄られた（またはこれから立ち寄る予定の）場所はどこですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答可）

①吉野山 ②大峰山 ③瀧峡・瀨八丁 ④九里峡 ⑤熊野本宮大社周辺

⑥熊野那智大社、那智の滝 ⑦尾鷲の九木崎、三木崎 ⑧熊野の鬼ヶ城、七里御浜

⑨那智勝浦、宇久井半島 ⑩串本の橋杭岩、潮岬、串本海域公園

⑪その他 (具体的な地名:)

質問は裏面につづきます。

<p>問3 吉野熊野国立公園について</p> <p>3-1. 吉野熊野国立公園の名前を知っていますか。 ①知っている ②知らない</p>
<p>3-2. 吉野熊野国立公園西大台地区は利用調整地区に指定されていることを知っていますか。 ①知っている ②知らない</p>
<p>問4 大台ヶ原について</p> <p>4-1. 大台ヶ原の中の区域や施設についてお聞きします。以下の中から、<u>知っている場所を全て</u>選んでください。(複数回答可) ①日出ヶ岳 ②正木峠 ③正木ヶ原 ④大蛇峠 ⑤シオカラ谷 ⑥西大台 ⑦大杉谷 ⑧大台ヶ原ビジターセンター ⑨大台教会 ⑩その他(具体的に：)</p>
<p>4-2. 大台ヶ原の中の区域や施設への来訪経験についてお聞きします。以下の中から、<u>行ったことがある場所を全て</u>選んでください。(複数回答可) ①日出ヶ岳 ②正木峠 ③正木ヶ原 ④大蛇峠 ⑤シオカラ谷 ⑥西大台 ⑦大杉谷 ⑧大台ヶ原ビジターセンター ⑨大台教会 ⑩その他(具体的に：)</p>
<p>※以下の質問は、大台ヶ原に行ったことがある方にお聞きします。</p> <p>4-3. 大台ヶ原に行ったことがある方にお聞きします。大台ヶ原を訪れて、どのように感じましたか。以下から、<u>1つ</u>選んでください。 ①たいへん満足した ②満足した ③普通 ④やや不満 ⑤不満</p>
<p>4-4. 大台ヶ原を訪れた際、大台ヶ原の施設(ドライブウェイ、歩道、トイレ、ビジターセンター、飲食施設・宿泊施設等)について、どのように感じましたか。以下から、<u>1つ</u>選んでください。</p> <p>1) ドライブウェイ ①たいへん満足した ②満足した ③普通 ④やや不満 ⑤不満</p> <p>2) 歩道 ①たいへん満足した ②満足した ③普通 ④やや不満 ⑤不満</p> <p>3) トイレ ①たいへん満足した ②満足した ③普通 ④やや不満 ⑤不満</p> <p>4) ビジターセンター ①たいへん満足した ②満足した ③普通 ④やや不満 ⑤不満</p> <p>5) 宿泊施設・飲食施設 ①たいへん満足した ②満足した ③普通 ④やや不満 ⑤不満</p>
<p>4-5. 大台ヶ原の施設(ドライブウェイ、歩道、トイレ、ビジターセンター、宿泊施設・飲食施設等)について、ご意見や要望があれば、以下に<u>自由</u>にお書きください。</p>

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。